

修正版

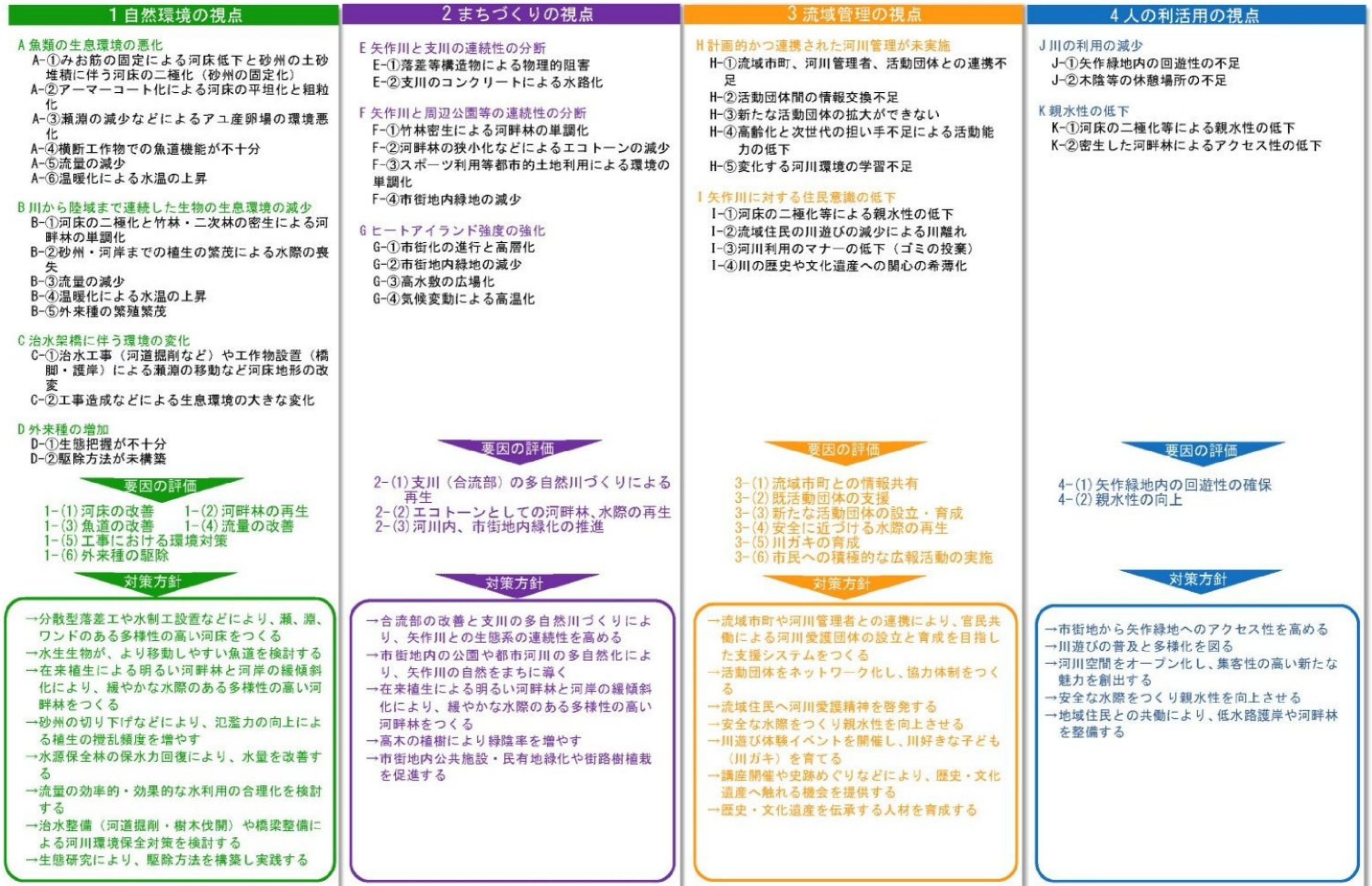
第3回 『豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会』

3資料-3
矢作川カルテについて

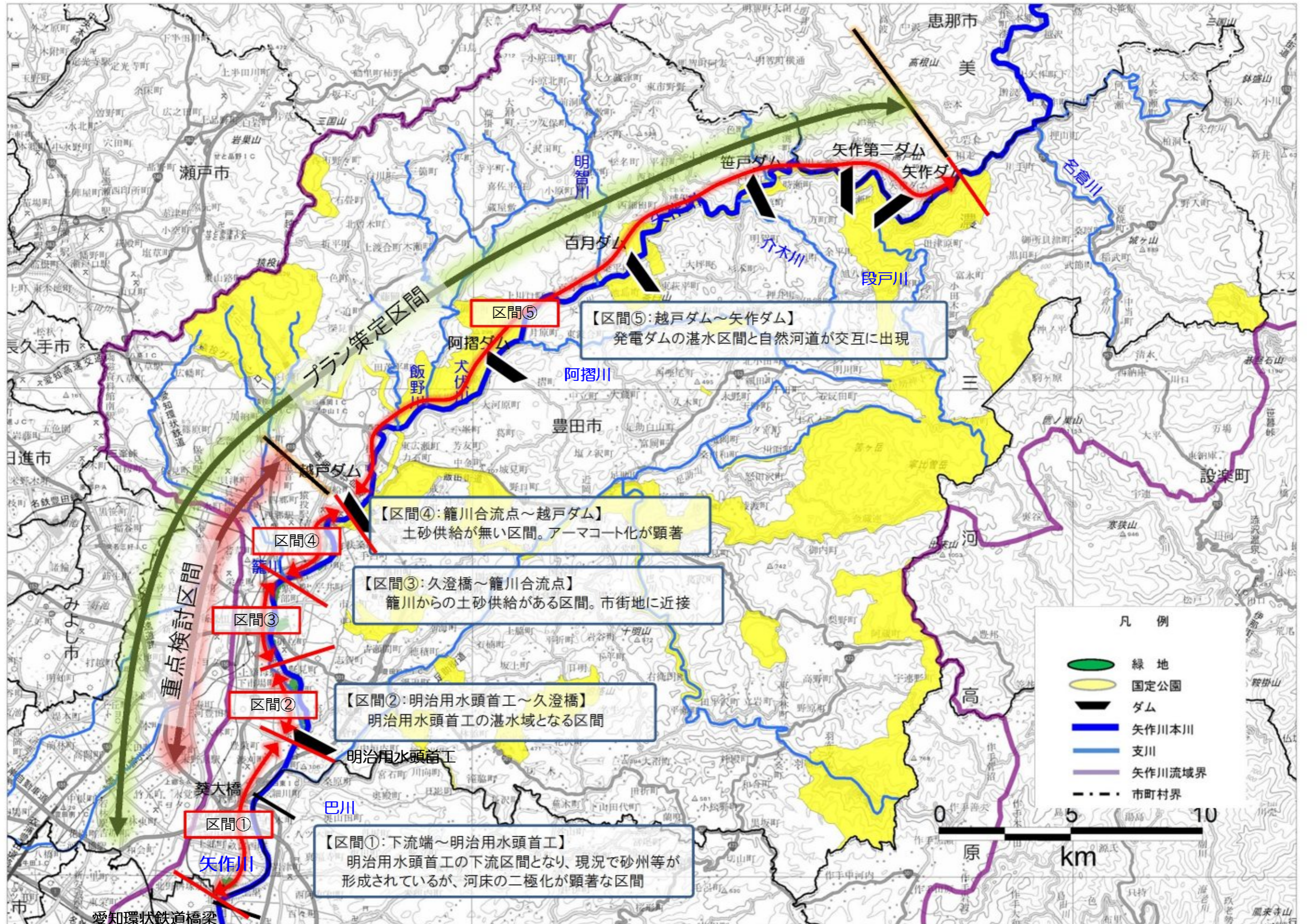
平成27年8月25日

豊 田 市

1. 課題に対する要因評価および対策方針



2. 区間の考え方



3. 矢作川カルテ（個別カルテを5つの区間でとりまとめ）

区間	対象区間	個別カルテ番号	課題要因				対策方針
			自然環境の視点	まちづくりの視点	流域管理の視点	人の利活用の視点	
流域全体	愛知環状鉄道橋梁～ 矢作ダム上流	共通	<ul style="list-style-type: none"> ●魚類の生息環境の悪化 [要因] ・流量の減少 ・温暖化による水温の上昇 ●川から陸域まで連続した生物の生息環境の減少 [要因] ・流量の減少 ・温暖化による水温の上昇 	区間別に記入	<ul style="list-style-type: none"> ●計画的かつ連携された河川管理が未実施 [要因] ・流域市町、河川管理者、活動団体との連携不足 ・新たな活動団体の拡大が広がっていない ・変化する河川環境の学習不足 ●矢作川に対する住民意識の低下 [要因] ・流域住民の川遊びの減少による川離れ ・川の歴史や文化遺産への関心の希薄化 ・河川利用のマナーの低下（ゴミの投棄） 	区間別に記入	<ul style="list-style-type: none"> 【自然環境の視点】 ・水源保全林の保水力回復により、水量を改善する ・流量の効率的・効果的な水利用の合理化を検討する 【流域管理の視点】 ・流域市町や河川管理者との連携により、官民協働による河川愛護団体の設立と育成を目指した支援システムをつくる ・流域住民へ河川愛護精神を啓発する ・川遊び体験イベントを開催し、川好きな子ども（川ガキ）を育てる ・講座開催や史跡めぐりなどにより、歴史・文化遺産へ触れる機会を提供するなど伝承方法を検討する。 ・歴史・文化遺産を伝承する人材を育成する
区間①	愛知環状鉄道橋梁～ 明治用水頭首工	1～2 A～C	<ul style="list-style-type: none"> ●魚類の生息環境の悪化 [課題] ・瀬、淵の減少により生息環境が単調化している ・アユの産卵環境が悪化している ・天然アユの遡上数が増えていない ・魚類を含めた水生生物の移動が阻害されている [要因] ・河床の低下により二極化している ・河床がアーモコート化、粗粒化している ・魚道の機能が不十分である ・渇水期に瀬切れしている ●川から陸域まで連続した生物の生息環境の減少 [課題] ・ワンドや浅瀬、水際などのエコトーンが減少している ・底生動物相が貧弱になっている（明治用水頭首工直下） [要因] ・固定化、樹林化しつつある中洲、砂州が発達している ・洪水時の攪乱頻度が減少している ・河畔林が密生化している ・渇水期に瀬切れしている ・安永川の合流により水質が悪化している ●治水架橋に伴う環境の変化 [課題] ・（県）豊田岡崎線架橋により河床環境が改変される ・明治用水頭首工の耐震化工事による生物生息環境の一時的な悪化が懸念される [要因] ・橋脚や護岸設置により大きく滞筋が変化する 	<ul style="list-style-type: none"> ●矢作川と支川の連続性の分断 [課題] ・（普）宝蔵川、（普）大谷川、（一）安永川、（普）琴平川との連続性がない [要因] ・高速道路と明治用水を暗渠にて下越している ・大きな落差により分断されている ・支川が水路化されている ●矢作川と周辺公園等の連続性の分断 [課題] ・河川景観が悪化している ・矢作川と柳川瀬公園との連続性がない [要因] ・河畔林などが密生化している 	<ul style="list-style-type: none"> ●計画的かつ連携された河川管理が未実施 [課題] ・河川管理に住民が参加していない [要因] ・住民との連携や情報交換が不足している ●矢作川に対する住民意識の低下 [課題] ・川に近づけない ・川が見えにくい [要因] ・河床低下による二極化により水際が崖地化している ・河畔林などが密生化している 	<ul style="list-style-type: none"> 【自然環境の視点の対策方針】 ・分散型落差工などにより、瀬、淵、ワンドのある多様性の高い河床をつくる ・水生生物が、より移動しやすい魚道を検討する ・砂州の切り下げなどにより、氾濫力の向上による植生の攪乱頻度を増やす ・在来植生による明るい河畔林と河岸の緩傾斜化により、緩やかな水際のある多様性の高い河畔林をつくる ・治水整備（河道掘削・樹木伐採）や橋梁整備による河川環境保全対策を検討する 【まちづくりの視点】 ・合流部の改善と支川の多自然川づくりにより、矢作川との生態系の連続性を高める（新安永川は整備中） ・在来植生による明るい河畔林との河岸の緩傾斜化により、緩やかな水際のある多様性の高い河畔林をつくる 【流域管理の視点】 ・安全な水際をつくり親水性を向上させる ・流域市町や河川管理者との連携により、官民協働による河川愛護団体の設立と育成を目指した支援システムをつくる ・川をめぐる歴史の伝承方法を検討する（水入遺跡・細川分一番所、明治用水頭首工） 	

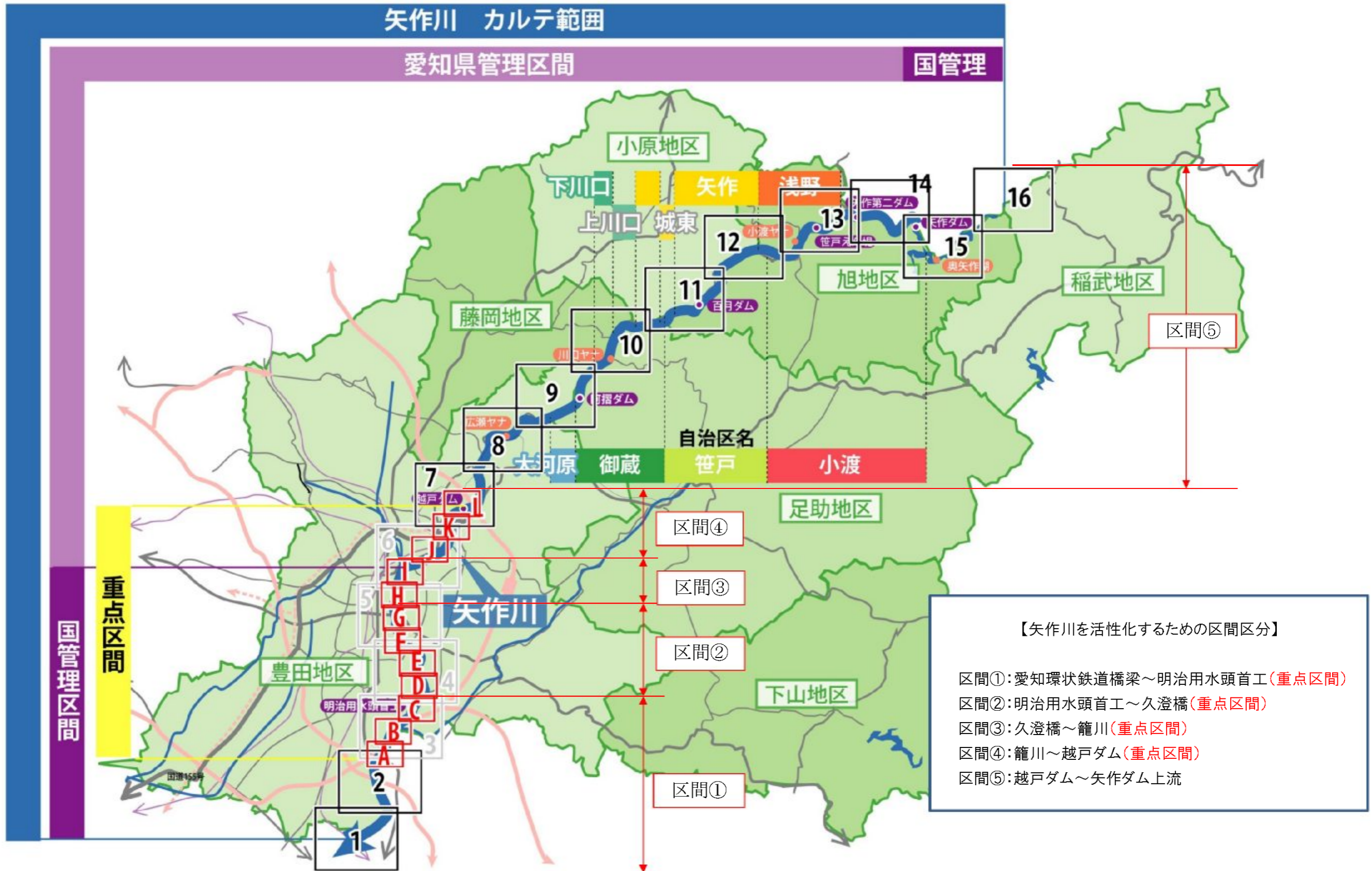
区 間	対象区間	個別カルテ 番号	課題要因				対策方針
			自然環境の視点	まちづくりの視点	流域管理の視点	人の利活用の視点	
区 間 ②	明治用水頭首工 ～久澄橋	D～G	<p>●魚類の生息環境の悪化 【課題】 ・アユの生息環境が減少している (以前、竜宮橋上流はアユ釣り場) 【要因】 ・河床の低下により湛水域が上流へ拡大している</p> <p>●川から陸域まで連続した生物の生息環境の減少 【課題】 ・水源緑地をはじめとする河畔林を構成する落葉広葉樹林の生物多様性が低下している ・河畔林が一部に形成されていない ・ワンドや浅瀬、水際などのエコトーンが減少している 【要因】 ・常緑広葉樹への変遷により密生化している ・右岸コンクリート護岸設置による水際の喪失 ・河畔林が密生化している ・二極化により水際が崖地化している ・広場整備により環境が単調化している</p> <p>●治水架橋に伴う環境の変化 【課題】 ・治水整備による生物生息環境の一時的な悪化が懸念される ・竜宮橋工事による生物生息環境の一時的な悪化が懸念される 【要因】 ・河道掘削、樹木伐採により生物生息環境が大きく改変される ・橋脚や護岸工事などにより生物生息環境が大きく改変される</p> <p>●外来種の増加 【課題】 ・明治用水頭首工ダム湖において、オオクチバスが他魚を捕食している 【要因】 ・駆除方法が構築できていない</p>	<p>●矢作川と周辺公園等の連続性の分断 【課題】 ・(一)加茂川、(準)大見川との連続性が弱い ・(準)榎尾川、(普)新川との連続性がない 【要因】 ・小さな落差により阻害されている(大見川、加茂川) ・支川が水路化されている ・多くの落差により阻害されている ・大きな落差により阻害されている(新川)</p> <p>●矢作川と周辺公園等の連続性の分断 【課題】 ・河川景観が悪化している ・河川敷公園が市街地内公園との連続性がない 【要因】 ・河畔林が密生化している ・二極化により水際が崖地化している ・広場整備により環境が単調化している ・地形的に高低差が大きい(平戸橋公園)</p>	<p>●計画的かつ連携された河川管理が未実施 【課題】 ・河川管理に住民が参加していない[要因] ・住民との連携や情報交換が不足している</p> <p>●矢作川に対する住民意識の低下 【課題】 ・川に近づけない ・川が見えない 【要因】 ・河畔林などが密生化している ・二極化により水際が崖地化している</p>	<p>●川の利用の減少 【課題】 ・人が利用できる場所がない(一部) ・矢作緑地内の回遊性の不足 【要因】 ・矢作緑地内の回遊性が不足している。 ・木陰等の休憩場所の不足 ・河畔林が密生化している</p> <p>●親水性の低下 【課題】 ・親水性の確保 【要因】 ・河床の二極化による親水性の低下 ・密生した河畔林によるアクセス性の低下 ・水際が深掘れして安全でない</p>	<p>【自然環境の視点】 ・分散型落差工などにより、瀬、淵などがある多様性の高い河床をつくる ・在来植生による明るい河畔林と河岸の緩傾斜化により、緩やかな水際のある多様性の高い河畔林をつくる ・間伐等による明るい落葉広葉樹林をつくる ・治水整備(河道掘削・樹木伐採)や橋梁整備による河川環境保全対策を検討する ・生態研究により駆除方法を構築し実践する ・河床低下対策を検討する</p> <p>【まちづくりの視点】 ・合流部の改善と支川の多自然川づくりや市街地内の公園を多自然化により、矢作川との生態系の連続性を高める ・在来植生による明るい河畔林との河岸の緩傾斜化により、緩やかな水際のある多様性の高い河畔林をつくる</p> <p>【流域管理の視点】 ・流域市町や河川管理者との連携により、官民協働による河川愛護団体の設立と育成を目指した支援システムをつくる ・安全な水際をつくり親水性を向上させる ・講座開催や史跡めぐりなどにより、歴史・文化・遺産へ触れる機会を提供する ・歴史・文化資産を伝承する人材を育成する(旧明治用水頭首工跡、丸根城址、流れ橋、挙母土場)</p> <p>【人の利活用の視点】 ・安全な水際を作り親水性を向上させる ・地域住民との共働により、低水路護岸や河畔林を整備する ・川遊びの普及と多様化を図る</p>

区 間	対象区間	個別カルテ 番号	課題要因				対策方針
			自然環境の視点	まちづくりの視点	流域管理の視点	人の利活用の視点	
区 間 ③	久澄橋～ 籠川	H～I	<p>●魚類の生息環境の悪化 [課題] ・アユの産卵環境が悪化している ・瀬淵の減少により生息環境が単調化している [要因] ・河床の低下により瀬が喪失している ・河床がアーモコート化、粗粒化している ・既設水制工が十分機能していない</p> <p>●川から陸域まで連続した生物の生息環境の減少 [課題] ・ワンドや浅瀬、水際などのエコトーンが減少している [要因] ・河畔林が密生化している ・二極化により水際が喪失している ・広場整備により環境が単調化している</p> <p>●治水架橋に伴う環境の変化 [課題] ・（県）豊田則定線架橋により河床環境が改変される ・治水整備による生物生息環境の一時的な悪化が懸念される [要因] ・橋脚や護岸設置により大きくみお筋が変化する ・河道掘削、樹木伐採により生物生息環境が大きく改変される</p> <p>●外来種の増加 [課題] ・オオカナダモが繁茂している [要因] ・生態把握が不十分である ・駆除方法が構築できていない</p>	<p>●矢作川と支川の連続性の分断 [課題] ・（準）小田川との連続性がない [要因] ・大きな落差により阻害されている ・支川が水路化されている</p> <p>●矢作川と周辺公園等の連続性の分断 [課題] ・河川敷公園や市街地内公園との連続性がない ・河川景観が悪化している [要因] ・河畔林が繁茂している ・二極化により水際が崖地化している ・広場整備により環境が単調化している</p> <p>●ヒートアイランド強度の強まり [課題] ・市街地でヒートアイランド強度が強まっている [要因] ・市街化が進行している ・高層化が進んでいる ・市街地内の緑地が減少している ・気象変動により高温化している ・高水敷を広場化している</p>	<p>●計画的かつ連携された河川管理が未実施 [課題] ・右岸側で河川管理に住民が参加していない ・一部で河川愛護団体が活動しているが拡大できていない [要因] ・住民との連携や情報交換が不足している ・活動メンバーが増えない</p> <p>●矢作川に対する住民意識の低下 [課題] ・川に近づけない ・川が見えない [要因] ・河畔林などが密生化している（河川愛護活動を実施中） ・河床低下による二極化により水際が崖地化している ・河畔林などが密生化している</p>	<p>●川の利用の減少 [課題] ・矢作緑地内の回遊性の不足 [要因] ・木陰等の休憩場所の不足 ・川遊びなどの情報発信が不足している ・スポーツ利用に特化している</p> <p>●親水性の低下 [課題] ・川に近づきにくい [要因] ・河床の二極化による親水性の低下 ・密生した河畔林によるアクセス性の低下</p>	<p>【自然環境の視点】 ・分散型落差工や水制工設置などにより、瀬、淵、ワンドのある多様性の高い河床をつくる ・在来植生による明るい河畔林と河岸の緩傾斜化により、緩やかな水際のある多様性の高い河畔林をつくる ・治水整備（河道掘削・樹木伐採）や橋梁整備による河川環境保全対策を検討する ・生態研究により駆除方法を構築し実践する</p> <p>【まちづくりの視点】 ・合流部の改善と支川の多自然川づくりにより、矢作川との生態系の連続性を高める ・在来植生による明るい河畔林との河岸の緩傾斜化により、緩やかな水際のある多様性の高い河畔林をつくる ・市街地内の公園や都市河川の多自然化により、矢作川の自然をまちに導く ・高木の植樹により緑陰率を増やす ・市街地内公共施設・民有地緑化や街路樹植栽を促進する</p> <p>【流域管理の視点】 ・流域市町や河川管理者との連携により、官民協働による河川愛護団体の設立と育成を目指した支援システムをつくる ・活動団体をネットワーク化し協力体制をつくる ・安全な水際をつくり親水性を向上させる （千石公園は河川協力団体として矢作川森林塾が河川愛護活動を実施中）</p> <p>【人の利活用の視点】 ・市街地から矢作緑地へのアクセス性を高める ・川遊びの普及と多様化を図る ・河川空間をオープン化し、集客性の高い新たな魅力を創出する ・安全な水際を作り親水性を向上させる ・地域住民との共働により、低水路護岸や河畔林を整備する</p>

区 間	対象区間	カルテ 番号	課題要因				対策方針
			自然環境の視点	まちづくりの視点	流域管理の視点	人の利活用の視点	
区 間 ④	籠川～ 越戸ダム	J～L	<p>●魚類の生息環境の悪化 [課題] ・瀬、淵の減少により生息環境が単調化している ・既設水制工により水際の瀬・淵は形成されているが、初期にアユが釣れない ・アカザ（絶滅危惧種）が減少している ・魚類を含めた水生生物の移動が阻害されている ・天然アユの遡上数が増えていない ・魚道の機能が不十分である [要因] ・河床の低下により二極化している ・河床がアーマーコート化、粗粒化している ・魚道の機能が不十分である</p> <p>●川から陸域まで連続した生物の生息環境の減少 [課題] ・ワンドや浅瀬、水際などのエコトーンが減少している ・底生動物相が貧弱となっている（ダム直下） [要因] ・河畔林が密生化している ・広場整備により環境が単調化している ・固定化、樹林化しつつある中洲、砂州が発達している ・洪水時の攪乱頻度が減少している ・減水により河床が安定化、粗粒化している ・二極化により水際が崖地化している</p> <p>●治水架橋に伴う環境の変化 [課題] ・（都）豊田北BP架橋により生物生息環境の一時的な悪化が懸念される [要因] ・大規模工事により生物生息環境が大きく改変される</p> <p>●外来種の増加 [課題] ・オオカナダモが繁茂している [要因] ・生態把握が不十分である ・駆除方法が構築できていない</p>	<p>●矢作川と支川の連続性の分断 [課題] ・（普）岩本川との連続性が弱い [要因] ・小さな落差により阻害されている</p> <p>●矢作川と周辺公園等の連続性の分断 [課題] ・河川敷公園や市街地公園との連続性がない ・河川景観が悪化している ・矢作川と平戸橋公園との連続性がない [要因] ・河畔林が密生化している ・二極化により水際が崖地化している ・広場整備により環境が単調化している ・地形的に高低差が大きい（平戸橋公園）</p>	<p>●計画的かつ連携された河川管理が未実施 [課題] ・一部で河川愛護団体が活動しているが拡大できていない ・河川管理に住民が参加していない [要因] ・住民との連携や情報交換が不足している ・活動メンバーが増えない</p> <p>●矢作川に対する住民意識の低下 [課題] ・川に近づけない ・川が見えない [要因] ・河床低下による二極化により水際が崖地化している ・河畔林などが密生化している</p>	<p>●川の利用の減少 [課題] ・矢作緑地内の回遊性の不足 [要因] ・矢作緑地内の回遊性が不足している ・木陰等の休息場所の不足（お釣り土場付近は除く） ・川遊びなどの情報発信が不足している</p> <p>●親水性の低下 [課題] ・川に近づきにくい [要因] ・河床の二極化による親水性の低下（古鼠水辺公園付近は除く） ・密生した河畔林によるアクセス性の低下（お釣り土場付近は除く）</p>	<p>【自然環境の視点】 ・分散型落差工や水制工設置などにより、瀬、淵、ワンドのある多様性の高い河床をつくる ・水生生物がより移動しやすい魚道を検討する ・砂州の切り下げなどにより、氾濫力の向上による植生の攪乱頻度を増やす ・在来植生による明るい河畔林と河岸の緩傾斜化により、緩やかな水際のある多様性の高い河畔林をつくる ・流量の効率的・効果的な水利用の合理化を検討する ・治水整備（河道掘削・樹木伐採）や橋梁整備による河川環境保全対策を検討する ・生態研究により駆除方法を構築し実践する</p> <p>【まちづくりの視点】 ・合流部の改善と支川の多自然川づくりにより、矢作川の生態系の連続性を高める ・在来植生による明るい河畔林と河岸の緩傾斜化により、緩やかな水際のある多様性の高い河畔林をつくる（お釣り土場公園、波岩水辺公園、石倉水辺公園、古鼠水辺公園は整備済） ・市街地内の公園や都市河川の多自然化により、矢作川の自然をまちに導く</p> <p>【流域管理の視点】 ・流域市町や河川管理者との連携により、官民協働による河川愛護団体の設立と育成を目指した支援システムをつくる ・活動団体をネットワーク化し、協力体制をつくる ・安全な水際をつくり親水性を向上させる ・川をめぐる歴史の伝承方法を検討する（貯木場、流れ橋、舟運、塩の道）</p> <p>【人の利活用の視点】 ・市街地から矢作緑地へのアクセス性を高める ・安全な水際を作り親水性を向上させる ・地域住民との共働により、低水路護岸や河畔林を整備する ・川遊びの普及と多様化を図る</p>

区 間	対象区間	個別カルテ 番号	課題要因				対策方針
			自然環境の視点	まちづくりの視点	流域管理の視点	人の利活用の視点	
区 間 ⑤	越戸ダム～ 矢作ダム上流	7～16	<p>●魚類の生息環境の悪化 [課題] ・魚類を含めた水生生物の移動が阻害されている ・天然アユの遡上数が増えていない ・初期にアユが釣れない ・在来種の生息環境が悪化している ・魚類相が貧弱となっている</p> <p>[要因] ・河床がアーマーコート化、粗粒化している ・ダム放流の調整により水量の変動が少ない ・矢作ダム、矢作第2ダムに魚道がない</p> <p>●川から陸域まで連続した生物の生息環境の減少 [課題] ・底生動物相が貧弱となっている（ダム直下） ・河畔林を構成する落葉広葉樹林の生物多様性が低下している ・水際などのエコトーンが減少している</p> <p>[要因] ・減水により河床が安定化、粗粒化している ・河畔林が密生化している ・氾濫による植生の更新がない ・洪水時の攪乱頻度が減少している ・河岸まで竹林、人工林が繁茂している ・瀬がほとんどなく全体が淵のようになっている ・流量の変動が少ない</p> <p>●外来種の増加 [課題] ・ダム湖、ダム直下にオオクチバス、ブルーギル、アメリカオオナマズ、オオカナダモ等が生息・群生している ・アオハイゴケ等のコケがマット状に繁茂している ・カワヒバリガイの生息 ・池島で一時的に糸状藻の大発生している ・矢作ダム湖が下流のカワヒバリガイの発生源となっている ・コモチカワツボが移入している</p> <p>[要因] ・生態把握が不十分である ・駆除方法が構築できていない</p>	<p>●矢作川と支川の連続性の分断 [課題] ・（普）一の瀬川、（普）宮ノ川、（普）高根川、（普）笹澤川、（普）藤沢川、（普）井の平川、（一）李川、（普）市平川、（一）田代川、（準）丹波川、（普）白石川、（一）介木川との連続性がない</p> <p>[要因] ・大きな落差により阻害されている ・支川が水路化されている</p> <p>●矢作川と周辺公園等の連続性の分断 [課題] ・矢作川と平戸橋公園との連続性がない ・河川景観が悪化している</p> <p>[要因] ・地形的に高低差が大きい ・河畔林が密生化している</p>	<p>●計画的かつ連携された河川管理が未実施 [課題] ・河川管理に住民が参加していない ・一部で河川愛護団体が活動しているが拡大できていない</p> <p>[要因] ・住民との連携や情報交換が不足している ・活動メンバーが増えない</p> <p>●矢作川に対する住民意識の低下 [課題] ・川に近づけない ・川が見えない</p> <p>[要因] ・河畔林などが密生化している</p>		<p>【自然環境の視点】 ・分散型落差工や水制工設置などにより、瀬、淵、ワンドのある多様性の高い河床の創出を検討する ・水生生物が、より移動しやすい魚道を検討する ・在来植生による明るい河畔林と河岸の緩傾斜化により、緩やかな水際のある多様性の高い河畔林をつくる ・流量の効率的・効果的な水利用の合理化を検討する ・生態研究により駆除方法を構築し実践する</p> <p>【まちづくりの視点】 ・合流部の改善と支川の多自然川づくりにより、矢作川との生態系の連続性を高める ・在来植生による明るい河畔林と河岸の緩傾斜化により、緩やかな水際のある多様性の高い河畔林をつくる</p> <p>【流域管理の視点】 ・流域市町や河川管理者との連携により、官民協働による河川愛護団体の設立と育成を目指した支援システムをつくる ・活動団体をネットワーク化し、協力体制をつくる ・安全な水際をつくり親水性を向上させる ・川をめぐる歴史の伝承方法を検討する（旧枝下用水、水汲遺跡）</p>

4. 個別カルテの位置図



区間①：カルテ1 27.0~29.2K



一級河川家下川
河道内の矢板により落差があり魚の遡行が出来なかったが、矢作川流域圏懇談会の取組みの中で、矢板を一部切欠き落差を解消した



矢作川水系河川整備計画
(国土交通省中部地方整備局 2009.7)

● 河川環境の現状
● 樹木群
● アユの産卵場

● 河川の整備の実施
● 河道掘削
● 樹木伐開
● 樹木伐開(維持)
● 橋梁改築

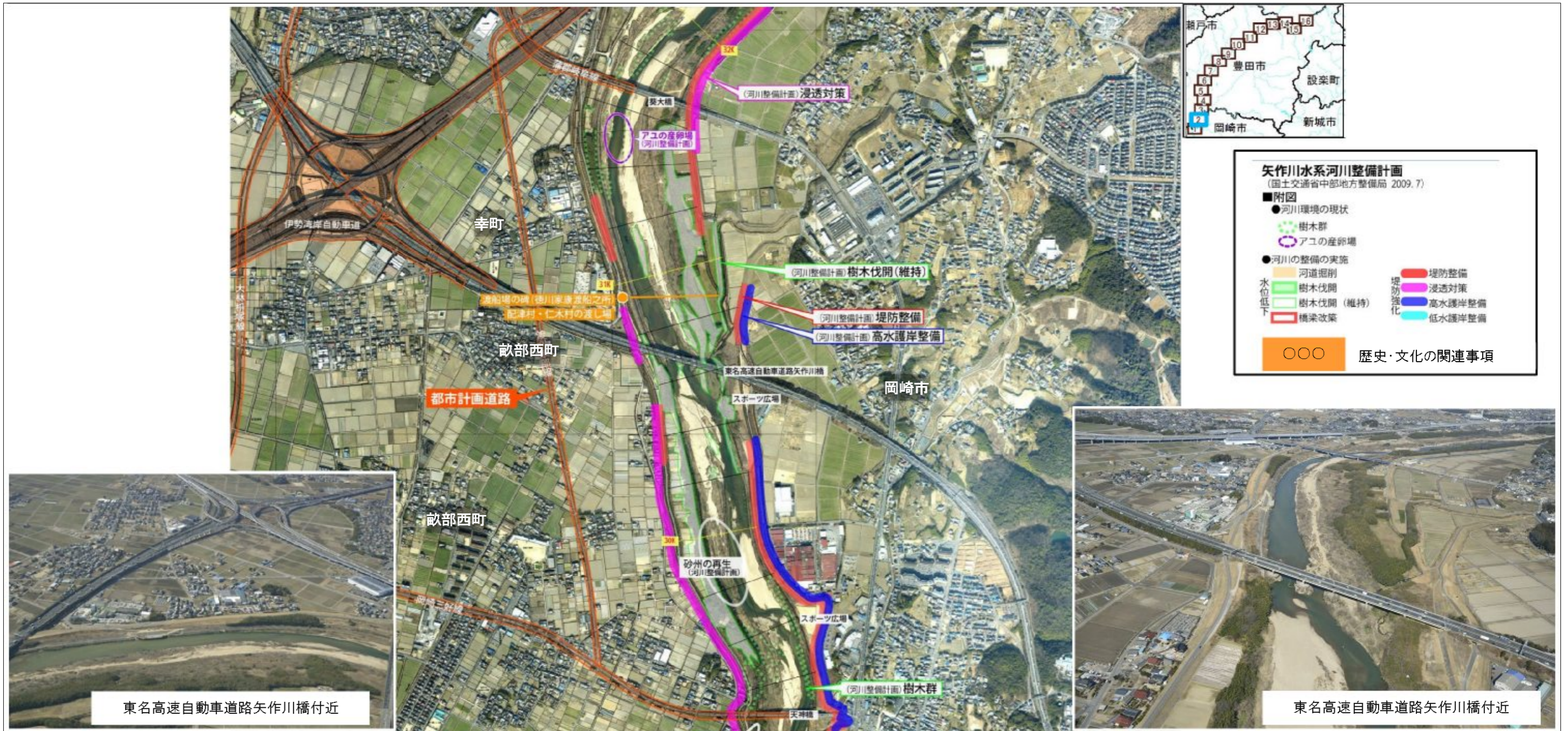
● 堤防整備
● 浸透対策
● 高水護岸整備
● 低水護岸整備

○ ○ ○ 歴史・文化の関連事項



愛知環状鉄道鉄橋より上流を望む

	自然環境の視点		まちづくりの視点		流域管理の視点		人の利用の視点			
	● 魚類の生息環境の悪化	● 川から陸域まで連続した生物の生息環境の減少	● 治水架橋に伴う環境の変化	● 外来種の増加	● 矢作川と支川の連続性の分断	● ヒートアイランド強度の強まり	● 計画的かつ連携された河川管理が未実施	● 矢作川に対する住民意識の低下	● 川の利用の減少	● 親水性の低下
課題	・ 瀬、淵の減少により生息環境が単調化している	・ ワンドや浅瀬、水際などのエコトーンが減少している			・ 河川景観が悪化している		・ 河川管理に住民が参加していない	・ 川に近づきにくい ・ 川が見えにくい		
要因	・ 河床の低下により二極化している ・ 河床がアーモークコート化、粗粒化している	・ 固定化、樹林化しつつある砂州が発達している ・ 河畔林が密生化している			・ 河畔林が密生化している		・ 住民との連携や情報交換が不足している	・ 河床低下による二極化により水際が崖地化している ・ 河畔林が密生化している		
対策方針	・ 水制工設置などにより、瀬、淵、ワンドのある多様性の高い河床をつくる	・ 砂州の切り下げなどにより、氾濫力の向上による植生の攪乱頻度を増やす ・ 在来植生による明るい河畔林と河岸の緩傾斜化により、緩やかな水際のある多様性の高い河畔林をつくる			・ 在来植生による明るい河畔林と河岸の緩傾斜化により、緩やかな水際のある多様性の高い河畔林をつくる		・ 流域市町や河川管理者との連携により、官民協働による河川愛護団体の設立と育成を目指した支援システムをつくる ・ 安全な水際をつくり親水性を向上させる			



矢作川水系河川整備計画
(国土交通省中部地方整備局 2009.7)

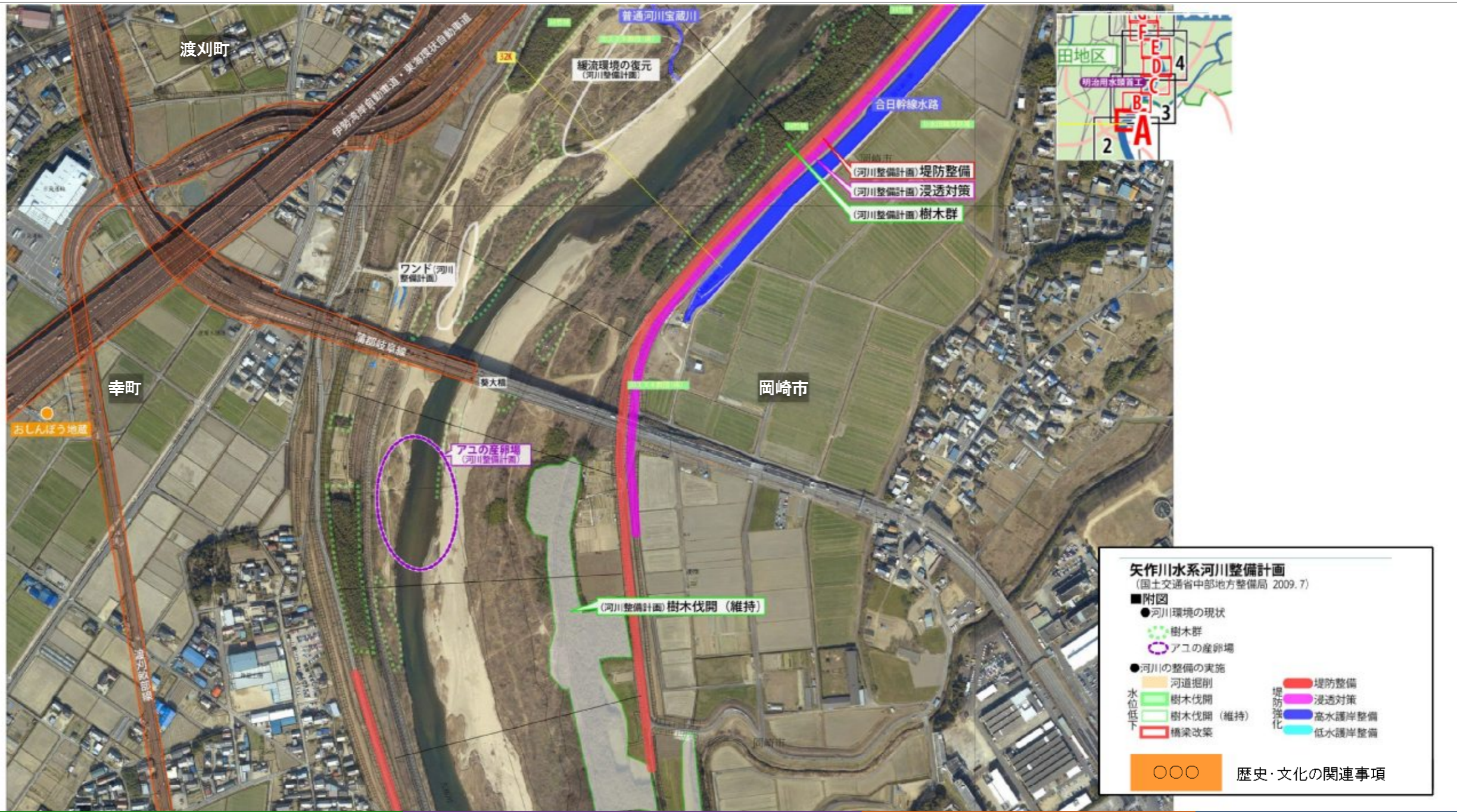
● 附図
● 河川環境の現状
● 樹木群
● アユの産卵場

● 河川の整備の実施
● 河道掘削
● 樹木伐開
● 樹木伐開(維持)
● 橋梁改築

● 堤防整備
● 浸透対策
● 高水護岸整備
● 低水護岸整備

○ ○ ○ 歴史・文化の関連事項

	自然環境の視点		まちづくりの視点		流域管理の視点		人の利用の視点				
	● 魚類の生息環境の悪化	● 川から陸域まで連続した生物の生息環境の減少	● 治水架橋に伴う環境の変化	● 外来種の増加	● 矢作川と支川の連続性の分断	● 矢作川と周辺公園等の連続性の分断	● ヒートアイランド強度の強まり	● 計画的かつ連携された河川管理が未実施	● 矢作川に対する住民意識の低下	● 川の利用の減少	● 親水性の低下
課題	・ 瀬、淵の減少により生息環境が単調化している	・ ワンドや浅瀬、水際などのエコトーンが減少している				・ 河川景観が悪化している ・ 柳川瀬公園との連続性がない		・ 河川管理に住民が参加していない	・ 川に近づきにくい ・ 川が見えにくい		
要因	・ 河床の低下により二極化している ・ 河床がアーモコート化、粗粒化している	・ 固定化、樹林化しつつある砂州が発達している ・ 河畔林が密生化している				・ 河畔林が密生化している		・ 住民との連携や情報交換が不足している	・ 河床低下による二極化により水際が崖地化している ・ 河畔林が密生化している		
対策方針	・ 水制工設置などにより、瀬、淵、ワンドのある多様性の高い河床をつくる	・ 砂州の切り下げなどにより、氾濫力の向上による植生の攪乱頻度を増やす ・ 在来植生による明るい河畔林と河岸の緩傾斜化により、緩やかな水際のある多様性の高い河畔林をつくる				・ 在来植生による明るい河畔林と河岸の緩傾斜化により、緩やかな水際のある多様性の高い河畔林をつくる		・ 流域市町や河川管理者との連携により、官民共協働による河川愛護団体の設立と育成を目指した支援システムをつくる ・ 安全な水際をつくり親水性を向上させる			



	自然環境の視点		まちづくりの視点		流域管理の視点		人の利用の視点			
	●魚類の生息環境の悪化	●川から陸域まで連続した生物の生息環境の減少	●治水架橋に伴う環境の変化	●外来種の増加	●矢作川と支川の連続性の分断	●ヒートアイランド強度の強まり	●計画的かつ連携された河川管理が未実施	●矢作川に対する住民意識の低下	●川の利用の減少	●親水性の低下
課題	・アユの産卵環境が悪化している	・ワンドや浅瀬、水際などのエコトーンが減少している					・河川管理に住民が参加していない	・川に近づきにくい ・川が見えにくい		
要因	・河床の低下により二極化している ・河床がアーマーカーコート化、粗粒化している	・固定化、樹林化しつつある砂州が発達している ・河畔林が密生化している					・住民との連携や情報交換が不足している	・河床低下による二極化により水際が崖地化している ・河畔林が密生化している		
対策方針	・水制工設置などにより、瀬、淵、ワンドのある多様性の高い河床をつくる	・砂州の切り下げなどにより、氾濫力の向上による植生の攪乱頻度を増やす ・在来植生による明るい河畔林と河岸の緩傾斜化により、緩やかな水際のある多様性の高い河畔林をつくる			・在来植生による明るい河畔林と河岸の緩傾斜化により、緩やかな水際のある多様性の高い河畔林をつくる		・流域市町や河川管理者との連携により、官民共働による河川愛護団体の設立と育成を目指す支援システムをつくる ・安全な水際をつくり親水性を向上させる			



普通河川大谷川
大きな落差により生態系が分断している

一級河川巴川
緩やかな合流により生態系の連続性が保たれ多くのアユは遡上している

普通河川宝蔵川
伊勢湾岸自動車道および明治用水を暗渠で下越しているため、生態系の連続性は薄い

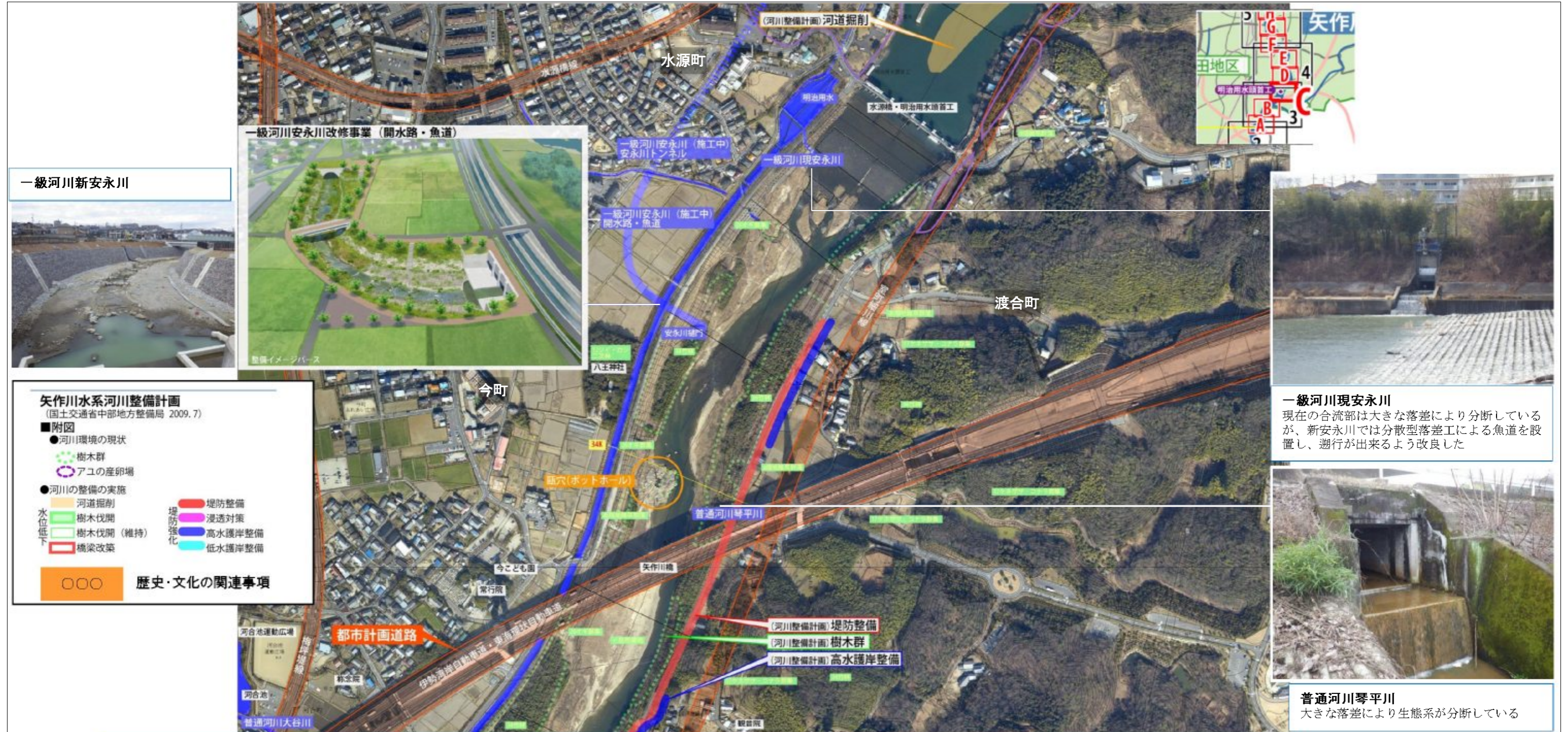
矢作川水系河川整備計画
(国土交通省中部地方整備局 2009.7)

■附図

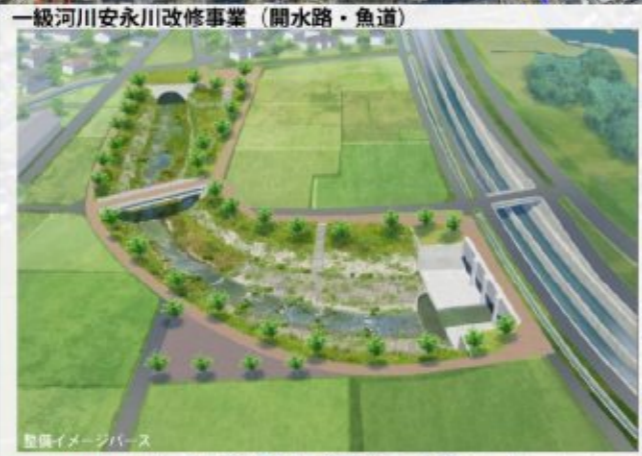
- 河川環境の現状
 - 樹木群
 - アユの産卵場
- 河川の整備の実施
 - 河道掘削
 - 樹木伐開
 - 樹木伐開(維持)
 - 橋梁改築
 - 堤防整備
 - 浸透対策
 - 堤防強化
 - 高水護岸整備
 - 低水護岸整備

○ ○ ○ 歴史・文化の関連事項

	自然環境の視点				まちづくりの視点			流域管理の視点		人の利用の視点	
	● 魚類の生息環境の悪化	● 川から陸域まで連続した生物の生息環境の減少	● 治水架橋に伴う環境の変化	● 外来種の増加	● 矢作川と支川の連続性の分断	● 矢作川と周辺公園等の連続性の分断	● ヒートアイランド強度の強まり	● 計画的かつ連携された河川管理が未実施	● 矢作川に対する住民意識の低下	● 川の利用の減少	● 親水性の低下
課題	・アユの産卵環境が悪化している	・ワンドや浅瀬、水際などのエコトーンが減少している	・(県)豊田岡崎線架橋により河床環境が改変される		・(普)宝蔵川との連続性がない ・(普)大谷川との連続性がない	・河川景観が悪化している		・河川管理に住民が参加していない	・川に近づきにくい ・川が見えにくい		
要因	・河床の低下により二極化している ・河床がアーモークコート化、粗粒化している	・固定化、樹林化しつつある中洲、砂州が発達している ・洪水時の攪乱頻度が減少している ・河畔林が密生化している	・橋脚や護岸設置により大きくみお筋が変化する		・高速道路と明治用水を暗渠にて下越している ・大きな落差により分断されている ・支川が水路化されている	・河畔林が密生化している		・住民との連携や情報交換が不足している	・河床低下による二極化により水際が崖地化している ・河畔林が密生化している		
対策方針	・水制工設置などにより、瀬、淵、ワンドのある多様性の高い河床をつくる	・砂州の切り下げなどにより、氾濫力の向上による植生の攪乱頻度を増やす ・在来植生による明るい河畔林と河岸の緩傾斜化により、緩やかな水際のある多様性の高い河畔林をつくる	・橋梁整備に合わせ河川環境保全対策を検討する		・合流部の改善と支川の多自然川づくりによる矢作川との生態系の連続性を検討する	・在来植生による明るい河畔林と河岸の緩傾斜化により、緩やかな水際のある多様性の高い河畔林をつくる		・流域市町や河川管理者との連携により、官民共働による河川愛護団体の設立と育成を目指した支援システムをつくる ・安全な水際をつくり親水性を向上させる ・川をめぐる歴史の伝承方法を検討する(水入遺跡・細川分一番所)			



一級河川新安永川

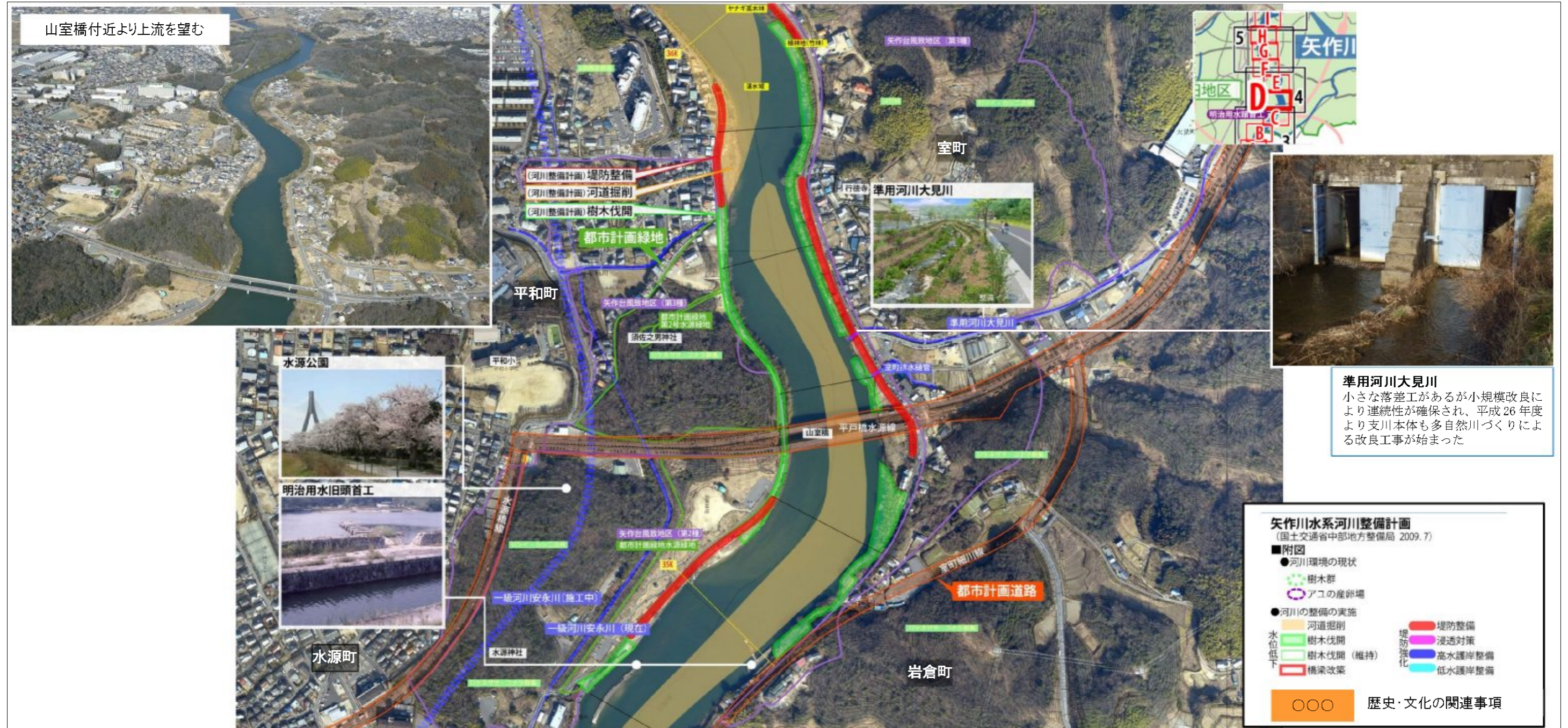


一級河川現安永川
現在の合流部は大きな落差により分断しているが、新安永川では分散型落差工による魚道を設置し、遡行が出来るよう改良した



普通河川琴平川
大きな落差により生態系が分断している

	自然環境の視点		まちづくりの視点		流域管理の視点		人の利用の視点				
	●魚類の生息環境の悪化	●川から陸域まで連続した生物の生息環境の減少	●治水架橋に伴う環境の変化	●外来種の増加	●矢作川と支川の連続性の分断	●矢作川と周辺公園等の連続性の分断	●ヒートアイランド強度の強まり	●計画的かつ連携された河川管理が未実施	●矢作川に対する住民意識の低下	●川の利用の減少	●親水性の低下
課題	・魚類を含めた水生生物の移動が阻害されている ・天然アユの遡上数が増えていない	・底生動物相が貧弱となっている(ダム直下)	・明治用水頭首工の耐震化工事による生物生息環境の一時的な悪化が懸念される	・明治用水頭首工ダム湖において、オクチバスが他魚を捕食している	・(一) 安永川との連続性がない ・(普) 琴平川との連続性がない	・河川景観が悪化している		・河川管理に住民が参加していない			
要因	・濁水期に瀬切れしている ・魚道の機能が不十分である	・濁水期に瀬切れしている ・安永川の合流により水質が悪化している	・大規模工事により生物生息環境が大きく変えられる	・駆除方法が構築できていない	・大きな落差により分断されている ・支川が水路化されている	・河畔林が密生化している		・住民との連携や情報交換が不足している			
対策方針	・水生生物がより移動しやすい魚道を検討する(回遊魚の降下)	・底生動物に必要な水量の確保を検討する	・工事に対する河川環境保全対策を実施する	・生態研究により駆除方法を構築し実践する	・合流部の改善と支川の多自然川づくりによる矢作川との生態系の連続性を検討する(新安永川は整備中)	・在来植生による明るい河畔林と河岸の緩傾斜化により、緩やかな水際のある多様性の高い河畔林をつくる		・流域市町や河川管理者との連携により、官民共働による河川愛護団体の設立と育成を目指した支援システムをつくる ・安全な水際をつくり親水性を向上させる ・川をめぐる歴史の伝承方法を検討する(明治用水頭首工)			



準用河川大見川
 小さな落差工があるが小規模改良により連続性が確保され、平成26年度より支川本体も多自然川づくりによる改良工事が始まった

矢作川水系河川整備計画
 (国土交通省中部地方整備局 2009.7)

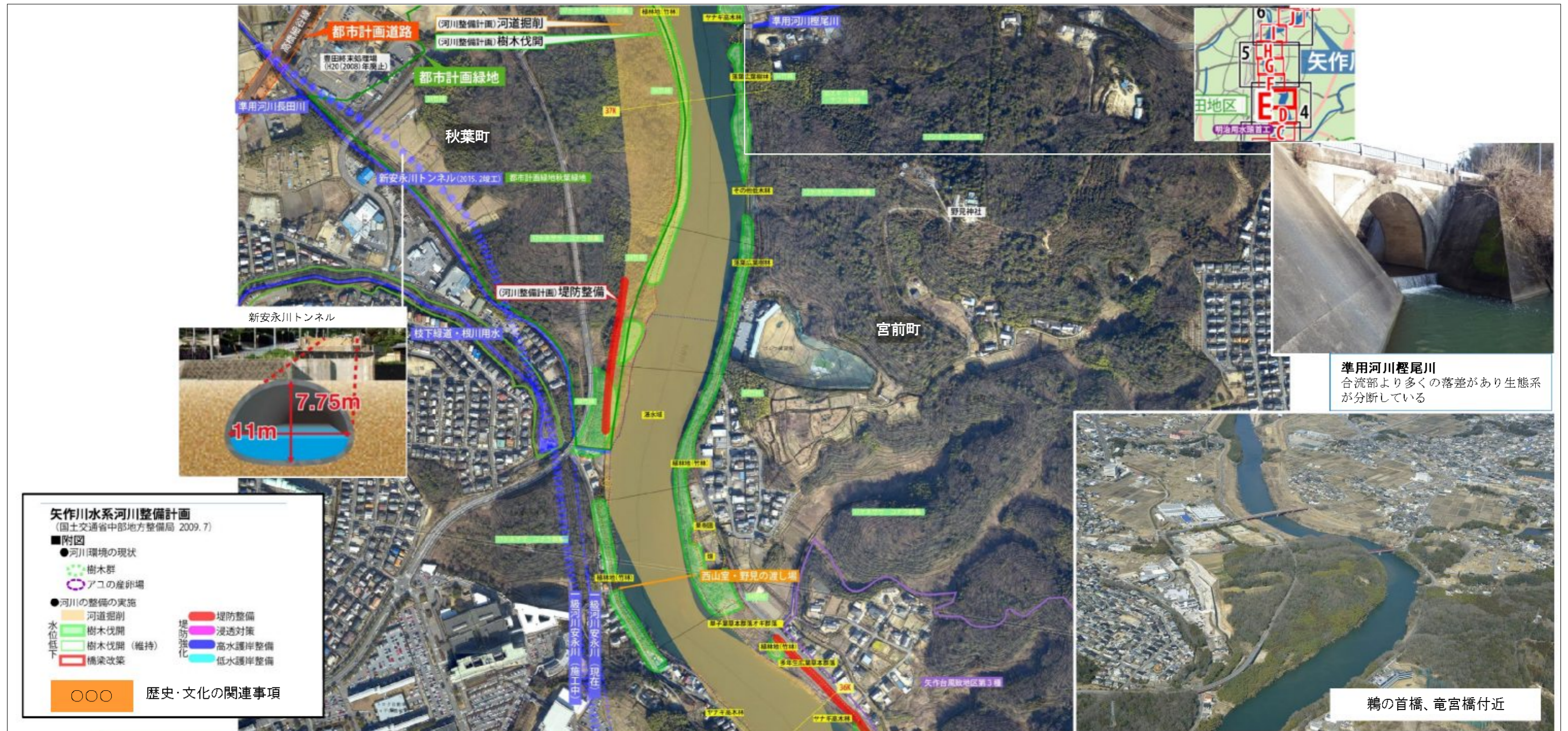
●附図
 ●河川環境の現状
 ●樹木群
 ●アユの産卵場

●河川の整備の実施
 ●河道掘削
 ●樹木伐開
 ●樹木伐開(維持)
 ●橋梁改築

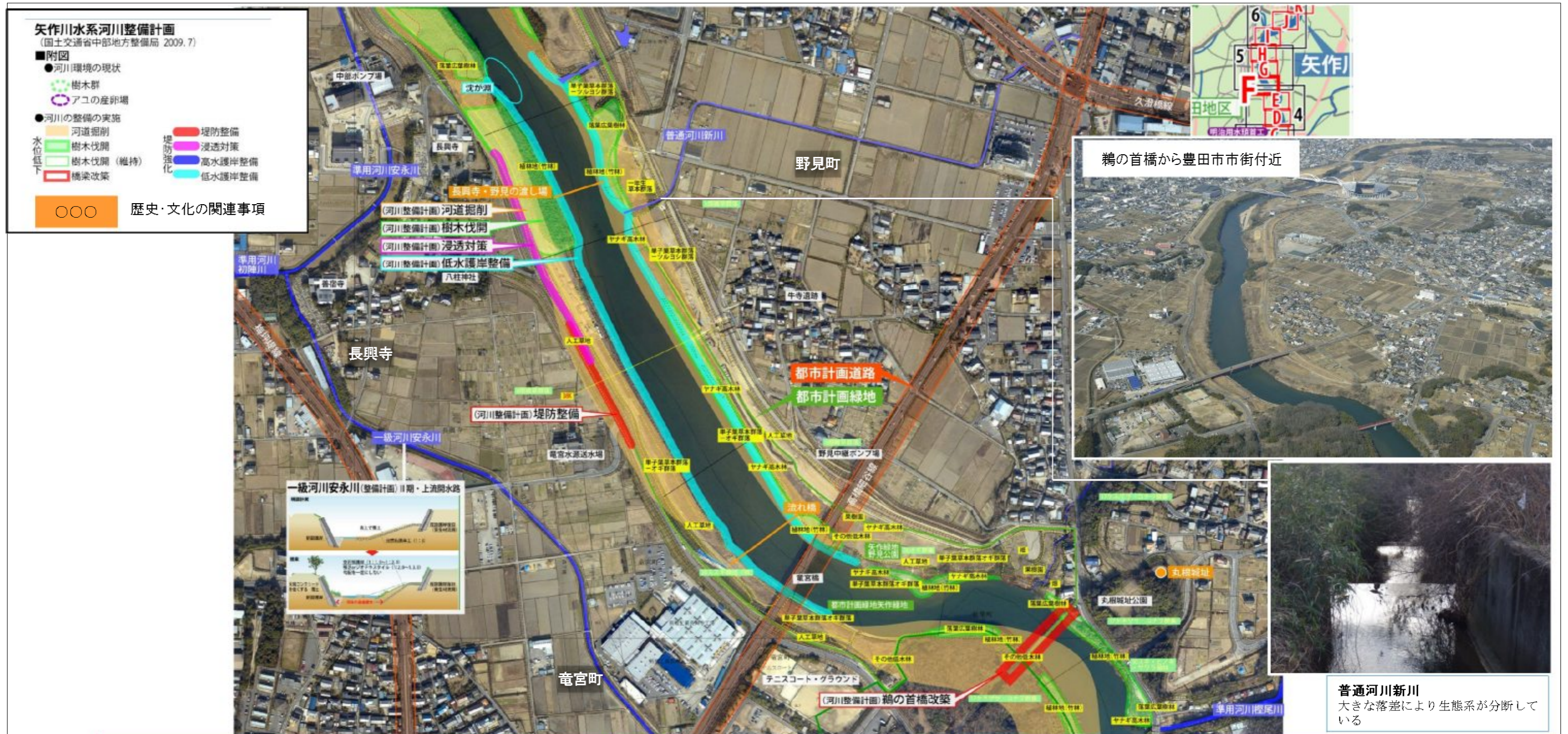
水位低下
 ●堤防整備
 ●浸透対策
 ●高水護岸整備
 ●低水護岸整備

○○○ 歴史・文化の関連事項

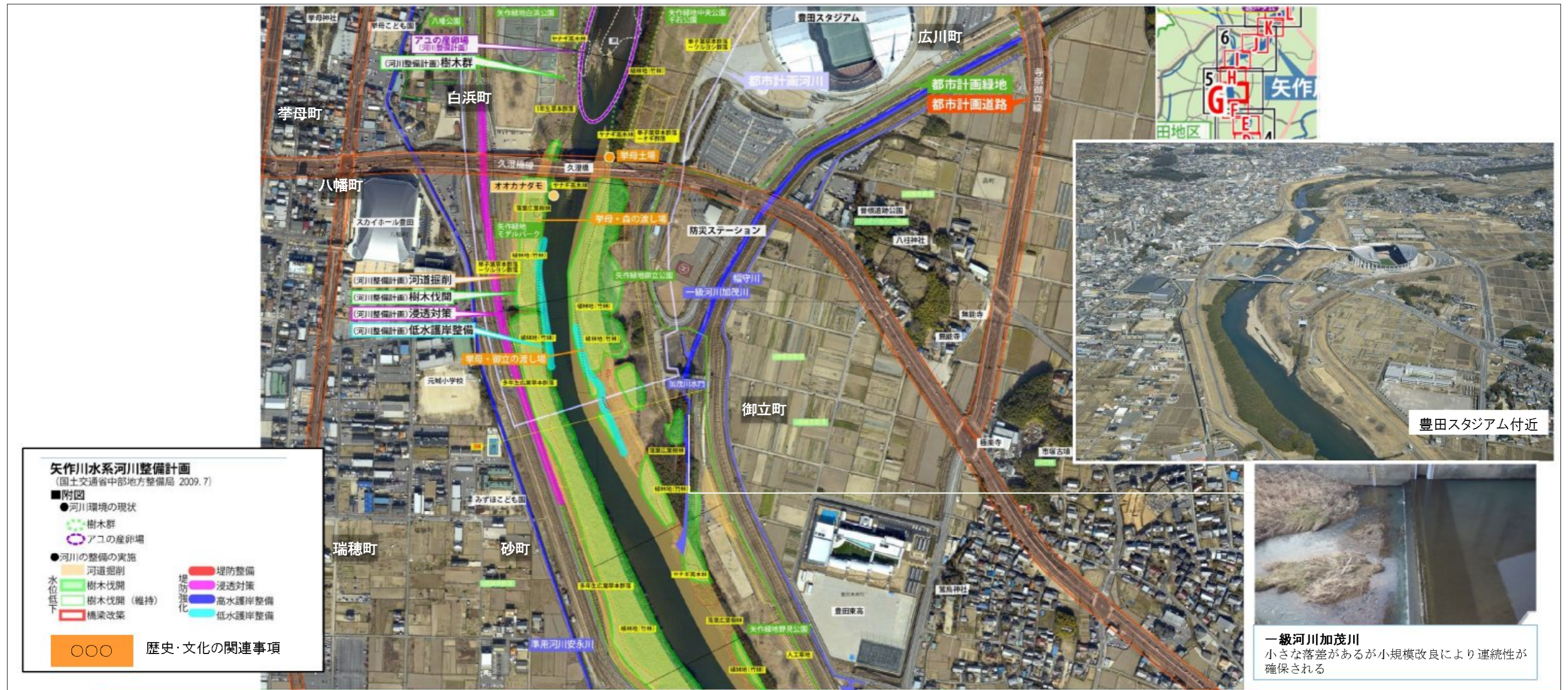
	自然環境の視点				まちづくりの視点			流域管理の視点		人の利用の視点	
	●魚類の生息環境の悪化	●川から陸域まで連続した生物の生息環境の減少	●治水架橋に伴う環境の変化	●外来種の増加	●矢作川と支川の連続性の分断	●矢作川と周辺公園等の連続性の分断	●ヒートアイランド強度の強まり	●計画的かつ連携された河川管理が未実施	●矢作川に対する住民意識の低下	●川の利用の減少	●親水性の低下
課題		・水源緑地をはじめとする河畔林を構成する落葉広葉樹林の生物多様性が低下している	・治水整備による生物生息環境の一時的な悪化が懸念される	・明治用水頭首工ダム湖において、オオクチバスが他魚を捕食している	・(準)大見川との連続性が弱い	・河川景観が悪化している		・河川管理に住民が参加していない	・川に近づけない ・川が見えない		
要因		・常緑広葉樹への変遷により密生化している	・河道掘削、樹木伐採により生物生息環境が大きく改変される	・駆除方法が構築できていない	・小さな落差により阻害されている ・支川が水路化されている	・河畔林が密生化している		・住民との連携や情報交換が不足している	・河畔林が密生化している		
対策方針		・間伐等による明るい落葉広葉樹林をつくる	・治水整備(河道掘削・樹木伐採)に合わせて河川環境保全対策を検討する	・生態研究により駆除方法を構築し実践する	・多自然川づくりにより整備中	・在来植生による明るい河畔林をつくる		・流域市町や河川管理者との連携により、官民共働による河川愛護団体の設立と育成を目指した支援システムをつくる ・安全な水際をつくり親水性を向上させる ・川をめぐる歴史の伝承方法を検討する(旧明治用水頭首工)			



	自然環境の視点	まちづくりの視点	流域管理の視点	人の利用の視点
	<ul style="list-style-type: none"> ● 魚類の生息環境の悪化 ● 川から陸域まで連続した生物の生息環境の減少 ● 治水架橋に伴う環境の変化 ● 外来種の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ● 矢作川と支川の連続性の分断 ● 矢作川と周辺公園等の連続性の分断 ● ヒートアイランド強度の強まり 	<ul style="list-style-type: none"> ● 計画的かつ連携された河川管理が未実施 ● 矢作川に対する住民意識の低下 	<ul style="list-style-type: none"> ● 川の利用の減少 ● 親水性の低下
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秋葉緑地をはじめとする河畔林を構成する落葉広葉樹林の生物多様性が低下している ・ 治水整備による生物生息環境の一時的な悪化が懸念される 	<ul style="list-style-type: none"> ・ (準) 椴尾川との連続性がない ・ 河川景観が悪化している 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 河川管理に住民が参加していない ・ 川に近づけない ・ 川が見えない 	
要因	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常緑広葉樹への変遷により密生化している ・ 河道掘削、樹木伐採により生物生息環境が大きく変更される 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの落差により阻害されている ・ 支川が水路化されている ・ 河畔林が密生化している 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民との連携や情報交換が不足している ・ 河畔林が密生化している 	
対策方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 間伐等による明るい落葉広葉樹林をつくる ・ 治水整備(河道掘削・樹木伐採)に合わせて河川環境保全対策を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合流部の改善と支川の多自然川づくりによる矢作川との生態系の連続性を検討する ・ 在来植生による明るい河畔林をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 流域市町や河川管理者との連携により、官民共働による河川愛護団体の設立と育成を目的とした支援システムをつくる 	



	自然環境の視点		まちづくりの視点		流域管理の視点		人の利用の視点				
	●魚類の生息環境の悪化	●川から陸域まで連続した生物の生息環境の減少	●治水架橋に伴う環境の変化	●外来種の増加	●矢作川と支川の連続性の分断	●矢作川と周辺公園等の連続性の分断	●ヒートアイランド強度の強まり	●計画的かつ連携された河川管理が未実施	●矢作川に対する住民意識の低下	●川の利用の減少	●親水性の低下
課題	・アユの生息環境が減少している(以前、竜宮橋上流はアユ釣り場)	・河畔林が一部形成されていない ・ワンドや浅瀬、水際などのエコトーンがない	・治水整備や竜宮橋工事による生物生息環境の一時的な悪化が懸念される		・(普)新川との連続性がない			・河川管理に住民が参加していない	・川に近づきにくい	・人が利用できる場所がない	・川に近づきにくい
要因	・河床の低下により湛水域が上流へ拡大している	・右岸コンクリート護岸設置による水際の喪失	・橋脚や護岸工事などにより生物生息環境が大きく改変される		・大きな落差により阻害されている ・支川が水路化されている			・住民との連携や情報交換が不足している	・河畔林などが密生化している	・河畔林が密生化している	・密生化した河畔林によりアクセス性の低下している ・水際が深掘れして安全でない
対策方針	・河床低下対策を検討する	・在来植生による明るい河畔林と河岸の緩傾斜化により、緩やかな水際のある多様性の高い河畔林をつくる	・治水整備(河道掘削・樹木伐採等)や橋梁整備に合わせて河川環境保全対策を検討する		・合流部の改善と支川の多自然川づくりによる矢作川との生態系の連続性を検討する			・流域市町や河川管理者との連携により、官民共働による河川愛護団体の設立と育成を目指した支援システムをつくる ・安全な水際をつくり親水性を向上させる ・川をめぐる歴史の伝承方法を検討する(丸根城址、流れ橋、拳母土場)	・安全な水際を作り親水性を向上させる ・地域住民との共働により、低水路河岸や河畔林を整備する		



一級河川加茂川
小さな落差があるが小規模改良により連続性が確保される

	自然環境の視点		まちづくりの視点		流域管理の視点		人の利用の視点					
課題	●魚類の生息環境の悪化	●川から陸域まで連続した生物の生息環境の減少	●治水架橋に伴う環境の変化	●外来種の増加	●矢作川と支川の連続性の分断	●矢作川と周辺公園等の連続性の分断	●ヒートアイランド強度の強まり	●計画的かつ連携された河川管理が未実施	●矢作川に対する住民意識の低下	●川の利用の減少	●親水性の低下	
要因	・アユの生息環境が減少している(以前、久澄橋下流はアユ釣り場)	・ワンドや浅瀬、水際などのエコトーンが減少している	・河床の低下により瀬が喪失している	・河畔林などが密生化している	・二極化により水際が崖地化している	・広場整備により環境が単調化している	・河畔林が密生化している	・治水整備による生物生息環境の一時的な悪化が懸念される	・河道掘削、樹木伐採により生物生息環境が大きく改変される	・小さな落差により阻害されている	・二極化により水際が崖地化している	・河畔林が密生化している
対策方針	・分散型落差工により、瀬、淵のある多様性の高い河床をつくる	・在来植生による明るい河畔林と河岸の緩傾斜化により、緩やかな水際のある多様性の高い河畔林をつくる(白浜工区は整備済)	・治水整備(河道掘削・樹木伐採)に合わせた河川環境保全対策を検討する	・合流部の改善と支川の多自然川づくりにより、矢作川との生態系の連続性を検討する	・在来植生による明るい河畔林と河岸の緩傾斜化により、緩やかな水際のある多様性の高い河畔林をつくる(白浜工区は整備済)	・市街地内の公園や都市河川の多自然化により、矢作川の自然をまちに導く	・流域市町や河川管理者との連携により、官民共働による河川愛護団体の設立と育成を目指した支援システムをつくる	・安全な水際をつくり親水性を向上させる(白浜工区は河川協働団体として矢作川森林塾が河川愛護活動を実施中)	・川をめぐる歴史の伝承方法を検討する(渡し場)	・川遊びの普及と多様化を図る	・安全な水際を作り親水性を向上させる	・地域住民との共働により、低水路河岸や河畔林を整備する



一級河川市木川
緩やかな合流により生態系の連続性が保たれ、中流部の落差についても多段式落差工による改良により連続性を確保している

矢作川水系河川整備計画
(国土交通省中部地方整備局 2009.7)

● 河川環境の現状
● 河川の整備の実施

● 樹木群
● アユの産卵場

● 河川整備計画
● 都市計画緑地
● 都市計画河川

● 堤防整備
● 浸透対策
● 高水護岸整備
● 低水護岸整備

○ ○ ○ 歴史・文化の関連事項

	自然環境の視点				まちづくりの視点			流域管理の視点		人の利用の視点	
	● 魚類の生息環境の悪化	● 川から陸域まで連続した生物の生息環境の減少	● 治水架橋に伴う環境の変化	● 外来種の増加	● 矢作川と支川の連続性の分断	● 矢作川と周辺公園等の連続性の分断	● ヒートアイランド強度の強まり	● 計画的かつ連携された河川管理が未実施	● 矢作川に対する住民意識の低下	● 川の利用の減少	● 親水性の低下
課題	・アユの産卵環境が悪化している ・瀬淵の減少により生息環境が単調化している	・ワンドや浅瀬、水際などのエコトーンが減少している	・治水整備や(県)豊田則定線架橋により河床環境が改変される	・オオカナダモが繁茂している		・河川敷公園や市街地内公園との連続性がない ・河川景観が悪化している	・市街地でヒートアイランド強度が強まっている	・右岸側での河川管理に住民が参加していない	・川に近づきにくい	・矢作緑地内の回遊性の不足	・川に近づきにくい
要因	・河床の低下により瀬が喪失している ・河床がアーマーコート化、粗粒化している	・河畔林が密生化している ・二極化により水際が崖地化している ・広場整備により環境が単調化している	・橋脚や護岸設置により大きくみお筋が変化する	・生態把握が不十分である ・駆除方法が構築できていない		・河畔林が密生化している ・二極化により水際が崖地化している ・広場整備により環境が単調化している	・市街化が進行している ・高層化が進んでいる ・市街地内の緑地が減少している ・気象変動により高温化している ・高水敷を広場化している	・住民との連携や情報交換が不足している	・二極化により水際が崖地化している ・河畔林が密生化している	・スポーツ利用に特化している ・木陰等の休憩場所が不足している	・河床の二極化による親水性の低下 ・密生した河畔林によるアクセス性の低下
対策方針	・分散型落差工や水制工設置などにより、瀬、淵、ワンドのある多様性の高い河床をつくる	・在来植生による明るい河畔林と河岸の緩傾斜化により、緩やかな水際のある多様性の高い河畔林をつくる	・治水整備(河道掘削・樹木伐採)や橋梁整備に合わせて河川環境保全対策を検討する	・生態研究により駆除方法を構築し実践する		・在来植生による明るい河畔林と河岸の緩傾斜化により、緩やかな水際のある多様性の高い河畔林をつくる ・市街地内の公園や都市河川の多自然化により、矢作川の自然をまちに導く	・市街地内の公園や都市河川の多自然化により、矢作川の自然をまちに導く ・高木の植樹により緑陰率を増やす ・市街地内公共施設・民有地緑化や街路樹植栽を促進する	・流域市町や河川管理者との連携により、官民共働による河川愛護団体の設立と育成を目指した支援システムをつくる ・安全な水際をつくり親水性を向上させる(千石公園は河川協力団体として矢作川森林塾が河川愛護活動を実施中)		・市街地から矢作緑地へのアクセス性を高める ・川遊びの普及と多様化を図る ・河川空間をオープン化し、集客性の高い新たな魅力を創出する ・安全な水際を作り親水性を向上させる ・地域住民との共働により、低水路河岸や河畔林を整備する	



一級河川籠川
緩やかな合流により生態系の連続性が保たれている

準用河川小田川
大きな落差により生態系が分断している

高橋から平成記念橋付近

矢作川水系河川整備計画
(国土交通省中部地方整備局 2009.7)

●附図
●河川環境の現状
●樹木群
●アユの産卵場
●河川の整備の実施

水位低下
●橋梁改善

●河道掘削
●樹木伐開
●樹木伐開(維持)

●堤防整備
●浸透対策
●高水護岸整備
●低水護岸整備

○○○ 歴史・文化の関連事項

	自然環境の視点				まちづくりの視点			流域管理の視点		人の利用の視点	
	●魚類の生息環境の悪化	●川から陸域まで連続した生物の生息環境の減少	●治水架橋に伴う環境の変化	●外来種の増加	●矢作川と支川の連続性の分断	●矢作川と周辺公園等の連続性の分断	●ヒートアイランド強度の強まり	●計画的かつ連携された河川管理が未実施	●矢作川に対する住民意識の低下	●川の利用の減少	●親水性の低下
課題	・瀬淵の減少により生息環境が単調化している	・ワンドや浅瀬、水際などのエコトーンが減少している	・治水整備による生物生息環境の一時的な悪化が懸念される	・オオカナダモが繁茂している	・(準)小田川との連続性がない	・河川敷公園や市街地内公園との連続性がない ・河川景観が悪化している	・市街地でヒートアイランド強度が強まっている	・一部で河川愛護団体が活動しているが拡大できていない	・川に近づきにくい ・川が見えにくい	・矢作緑地内の回遊性の不足	・川に近づきにくい
要因	・既設水制工が十分機能していない	・河畔林が密生化している ・二極化により水際が崖地化している ・広場整備により環境が単調化している	・河道掘削、樹木伐採により生物生息環境が大きく改変される	・生態把握が不十分である ・駆除方法が構築できていない	・大きな落差により阻害されている ・支川が水路化されている	・河畔林が密生化している ・二極化により水際が崖地化している ・広場整備により環境が単調化している	・市街化が進行している ・高層化が進んでいる ・市街地内の緑地が減少している ・気象変動により高温化している ・高水敷を広場化している	・活動メンバーが増えない ・住民との連携や情報交換が不足している	・二極化により水際が崖地化している ・河畔林が密生化している	・スポーツ利用に特化している ・木陰等の休憩場が不足している ・川遊びなどの情報発信が不足している	・河床の二極化により親水性の低下している ・密生した河畔林によりアクセス性の低下している
対策方針	・水制工の改良などにより、多様性の高い河床をつくる	・在来植生による明るい河畔林と河岸の緩傾斜化により、緩やかな水際のある多様性の高い河畔林をつくる	・治水整備(河道掘削・樹木伐採)に合わせた河川環境保全対策を検討する	・生態研究により駆除方法を構築し実践する	・合流部の改善と支川の多自然川づくりによる矢作川との生態系の連続性を検討する	・在来植生による明るい河畔林と河岸の緩傾斜化により、緩やかな水際のある多様性の高い河畔林をつくる ・市街地内の公園や都市河川の多自然化により、矢作川の自然をまちに導く	・市街地内の公園や都市河川の多自然化により、矢作川の自然をまちに導く ・高木の植樹により緑陰率を増やす ・市街地内公共施設・民有地緑化や街路樹植栽を促進する	・流域市町や河川管理者との連携により、官民共働による河川愛護団体の設立と育成を目指す支援システムをつくる ・活動団体をネットワーク化し協力体制をつくる ・安全な水際をつくり親水性を向上させる	・市街地から矢作緑地へのアクセス性を高める ・川遊びの普及と多様化を図る ・河川空間をオープン化し、集客性の高い新たな魅力を創出する ・安全な水際を作り親水性を向上させる ・地域住民との共働により、低水路河岸や河畔林を整備する		



	自然環境の視点				まちづくりの視点			流域管理の視点		人の利用の視点	
	●魚類の生息環境の悪化	●川から陸域まで連続した生物の生息環境の減少	●治水架橋に伴う環境の変化	●外来種の増加	●矢作川と支川の連続性の分断	●矢作川と周辺公園等の連続性の分断	●ヒートアイランド強度の強まり	●計画的かつ連携された河川管理が未実施	●矢作川に対する住民意識の低下	●川の利用の減少	●親水性の低下
課題	・瀬、淵の減少により生息環境が単調化している	・ワンドや浅瀬、水際などのエコトーンが減少している		・オオカナダムが繁茂している	・(普)岩本川との連続性が弱い	・河川敷公園や市街地内公園との連続性がない ・河川景観が悪化している		・一部で河川愛護団体が活動しているが拡大できていない	・川に近づきにくい ・川が見えにくい	・矢作緑地内の回遊性の不足	・川に近づきにくい
要因	・河床の低下により二極化している ・河床がアーモート化、粗粒化している	・河畔林が密生化している ・二極化により水際が崖地化している ・広場整備により環境が単調化している		・生態把握が不十分である ・駆除方法が構築できていない	・小さな落差により阻害されている	・河畔林が密生化している ・二極化により水際が崖地化している ・広場整備により環境が単調化している		・活動メンバーが増えない ・住民との連携や情報交換が不足している	・河床低下による二極化により水際が崖地化している ・河畔林などが密生化している	・川遊びなどの情報発信が不足している ・矢作緑地内の回遊性が不足している ・木陰等の休息場所の不足	・河床の二極化により親水性の低下している ・密生した河畔林によりアクセス性が低下している(お釣り土場付近は除く)
対策方針	・分散型落差工や水制工設置などにより、瀬、淵、ワンドのある多様性の高い河床をつくる	・在来植生による明るい河畔林と河岸の緩傾斜化により、緩やかな水際のある多様性の高い河畔林をつくる		・生態研究により駆除方法を構築し実践する	・合流部の改善と支川の多自然川づくりによる矢作川との生態系の連続性を検討する	・在来植生による明るい河畔林と河岸の緩傾斜化により、緩やかな水際のある多様性の高い河畔林をつくる(お釣り土場公園は整備済) ・市街地内の公園の多自然化により、矢作川の自然をまちに導く		・流域市町や河川管理者との連携により、官民共働による河川愛護団体の設立と育成を目指した支援システムをつくる ・活動団体をネットワーク化し協力体制をつくる ・安全な水際をつくり親水性を向上させる ・川をめぐる歴史の伝承方法を検討する(貯木場、流れ橋)	・安全な水際を作り親水性を向上させる ・地域住民との共働により、低水路河岸や河畔林を整備する ・市街地から矢作緑地へのアクセス性を高める		



	自然環境の視点		まちづくりの視点		流域管理の視点		人の利用の視点			
	●魚類の生息環境の悪化	●川から陸域まで連続した生物の生息環境の減少	●治水架橋に伴う環境の変化	●外来種の増加	●矢作川と支川の連続性の分断	●ヒートアイランド強度の強まり	●計画的かつ連携された河川管理が未実施	●矢作川に対する住民意識の低下	●川の利用の減少	●親水性の低下
課題	・既設水制工により水際の瀬・淵は形成されているが、アユが釣れない ・アカザ(絶滅危惧種)が減少している	・ワンドや浅瀬、水際などのエコトーンが減少している	・(都)豊田北B P架橋により生物生息環境の一時的な悪化が懸念される	・オオカナダモが繁茂している			・河川愛護団体が活動しているが拡大できていない			
要因	・河床の低下により二極化している ・河床がアーマーコート化、粗粒化している	・固定化、樹林化しつつある砂州が発達している ・河畔林が密生化している	・大規模工事により生物生息環境が大きく改変される	・生態把握が不十分である ・駆除方法が構築できていない			・活動メンバーが増えない ・住民との連携や情報交換が不足している			
対策方針	・分散型落差工や水制工設置などにより、瀬、淵、ワンドのある多様性の高い河床をつくる	・在来植生による明るい河畔林と河岸の緩傾斜化により、緩やかな水際のある多様性の高い河畔林をつくる ・砂州の切り下げなどにより、氾濫力の向上による植生の攪乱頻度を増やす	・橋梁整備に合わせて河川環境保全対策を検討する	・生態研究により駆除方法を構築し実践する			・活動団体をネットワーク化し協力体制をつくる ・川をめぐる歴史の伝承方法を検討する(舟運・塩の道)			



	自然環境の視点		まちづくりの視点		流域管理の視点		人の利用の視点				
	●魚類の生息環境の悪化	●川から陸域まで連続した生物の生息環境の減少	●治水架橋に伴う環境の変化	●外来種の増加	●矢作川と支川の連続性の分断	●矢作川と周辺公園等の連続性の分断	●ヒートアイランド強度の強まり	●計画的かつ連携された河川管理が未実施	●矢作川に対する住民意識の低下	●川の利用の減少	●親水性の低下
課題	・魚類を含めた水生生物の移動が阻害されている ・天然アユの遡上数が増えていない	・底生動物相が貧弱となっている(ダム直下)				・平戸橋公園との連続性がない		・河川管理に住民が参加していない			
要因	・魚道の機能が不十分である	・減水により河床が安定化、粗粒化している				・地形的に高低差が大きい		・住民との連携や情報交換が不足している			
対策方針	・水生生物がより移動しやすい魚道を検討する(回遊魚の降下)	・流量の効率的・効果的な水利用の合理化を検討する				・(仮)民芸の溪整備計画で検討している		・流域市町や河川管理者との連携により、官民共働による河川愛護団体の設立と育成を目指した支援システムをつくる			



一級河川御船川

越戸ダム湛水域に緩やかに合流して、生態系の連続性が保たれている



越戸ダム・越戸発電所
 形式：直轄重力式コンクリートダム
 堤高：22.8m
 堤長：120.3m
 流域面積：900.8km²
 湛水面積：48ha
 貯水量：2,876,000m³
 有効貯水量：574,000m³
 貯水池名：三水湖
 用途：発電
 右岸に魚道有り



一級河川力石川

越戸ダム湛水域に緩やかに合流して、生態系の連続性が保たれている



普通河川一の瀬川

越戸ダム湛水域に緩やかに合流しているが、上流の大きな落差により生態系が分断している

〇〇〇 歴史・文化の関連事項

	自然環境の視点			まちづくりの視点			流域管理の視点		人の利用の視点		
	●魚類の生息環境の悪化	●川から陸域まで連続した生物の生息環境の減少	●治水架橋に伴う環境の変化	●外来種の増加	●矢作川と支川の連続性の分断	●矢作川と周辺公園等の連続性の分断	●ヒートアイランド強度の強まり	●計画的かつ連携された河川管理が未実施	●矢作川に対する住民意識の低下	●川の利用の減少	●親水性の低下
課題	・魚類を含めた水生生物の移動が阻害されている ・天然アユの遡上数が増えていない	・底生動物相が貧弱となっている（ダム直下）		・越戸ダム湖、ダム直下にオオクチバス、ブルーギル、アメリカオオナマズ等が生息している	・（普）一の瀬川との連続性がない	・河川景観が悪化している		・河川管理に住民が参加していない	・川に近づけない ・川が見えない		
要因	・魚道の機能が不十分である	・減水により河床が安定化、粗粒化している		・生態把握が不十分である ・駆除方法が構築できていない	・上流の大きな落差により阻害されている ・支川が水路化されている	・河畔林が密生化している		・住民との連携や情報交換が不足している	・河畔林が密生化している		
対策方針	・水生生物がより移動しやすい魚道を検討する（回遊魚の降下）	・流量の効率的・効果的な水利用の合理化を検討する		・生態研究により駆除方法を構築し実践する	・合流部の改善と支川の多自然川づくりによる、矢作川との生態系の連続性を検討する	・在来植生による明るい河畔林をつくる		・流域市町や河川管理者との連携により、官民共働による河川愛護団体の設立と育成を目指した支援システムをつくる ・川をめぐる歴史の伝承方法を検討する（旧枝下用水）			



	自然環境の視点		まちづくりの視点		流域管理の視点		人の利用の視点		
	● 魚類の生息環境の悪化	● 川から陸域まで連続した生物の生息環境の減少	● 治水架橋に伴う環境の変化	● 外来種の増加	● 矢作川と支川の連続性の分断	● ヒートアイランド強度の強まり	● 計画的かつ連携された河川管理が未実施	● 川の利用の減少	● 親水性の低下
課題	・初期にアユが釣れない ・在来種の生息環境が悪化している	・河畔林を構成する落葉広葉樹林の生物多様性が低下している			・(普)宮ノ川、(普)高根川、(普)笹澤川との連続性がない	・河川景観が悪化している	・一部で河川愛護団体が活動しているが拡大できていない	・川に近づきにくい ・川が見えにくい	
要因	・河床がアーマーコート化、粗粒化している	・河岸まで竹林が繁茂している ・氾濫による植生の更新がない ・河畔林が密生化している			・大きな落差により阻害されている ・支川が水路化されている	・河畔林が密生化している	・活動メンバーが増えない ・住民との連携や情報交換が不足している	・河畔林が密生化している	
対策方針	・瀬、淵、ワンドのある多様性の高い河床の創出を検討する	・在来植生による明るい河畔林をつくる			・合流部の改善と支川の多自然川づくりによる矢作川との生態系の連続性を検討する	・在来植生による明るい河畔林をつくる	・流域市町や河川管理者との連携により、官民共働による河川愛護団体の設立と育成を目指した支援システムをつくる ・活動団体をネットワーク化し協力体制をつくる		



〇〇〇 歴史・文化の関連事項

	自然環境の視点		まちづくりの視点		流域管理の視点		人の利用の視点				
	●魚類の生息環境の悪化	●川から陸域まで連続した生物の生息環境の減少	●治水架橋に伴う環境の変化	●外来種の増加	●矢作川と支川の連続性の分断	●矢作川と周辺公園等の連続性の分断	●ヒートアイランド強度の強まり	●計画的かつ連携された河川管理が未実施	●矢作川に対する住民意識の低下	●川の利便性の減少	●親水性の低下
課題	・魚類を含めた水生生物の移動が阻害されている ・在来種の生息環境が悪化している	・底生動物相が貧弱となっている(ダム直下) ・河畔林を構成する落葉広葉樹林の生物多様性が低下している		・阿摺ダム湖・ダム直下にアメリカナマス、オオクチバス、ブルーギルが生息、オオカナダモ群生している ・アオハイゴケ等のコケがマット状に繁茂している	・(普)藤沢川との連続性がない	・河川景観が悪化している		・一部で河川愛護団体が活動しているが拡大できていない	・川に近づきにくい ・川が見えにくい		
要因	・河床がアーモークート化、粗粒化している ・魚道の機能が不十分である	・減水により河床が安定化、粗粒化している ・河畔林が密生化している ・氾濫による植生の更新がない		・生態把握が不十分である ・駆除方法が構築できていない	・大きな落差により阻害されている ・支川が水路化されている	・河畔林が密生化している		・活動メンバーが増えない ・住民との連携や情報交換が不足している	・河畔林が密生化している		
対策方針	・水生生物がより移動しやすい魚道を検討する(回遊魚の降下) ・瀬、淵、ワンドのある多様性の高い河床の創出を検討する	・流量の効率的・効果的な水利用の合理化を検討する ・在来植生による明るい河畔林をつくる		・生態研究により駆除方法を構築し実践する	・合流部の改善と支川の多自然川づくりによる矢作川との生態系の連続性を検討する	・在来植生による明るい河畔林をつくる		・流域市町や河川管理者との連携により、官民共働による河川愛護団体の設立と育成を目指した支援システムをつくる ・活動団体をネットワーク化し協力体制をつくる ・安全な水際をつくり親水性を向上させる			



	自然環境の視点			まちづくりの視点			流域管理の視点		人の利用の視点		
	●魚類の生息環境の悪化	●川から陸域まで連続した生物の生息環境の減少	●治水架橋に伴う環境の変化	●外来種の増加	●矢作川と支川の連続性の分断	●矢作川と周辺公園等の連続性の分断	●ヒートアイランド強度の強まり	●計画的かつ連携された河川管理が未実施	●矢作川に対する住民意識の低下	●川の利用の減少	●親水性の低下
課題	・初期にアユが釣れない(乙長瀬) ・在来種の生息環境が悪化している	・水際などのエコトーンが減少している		・カワヒバリガイの生息	・(普)井の平川、(一)李川との連続性がない	・河川景観が悪化している		・一部で河川愛護団体が活動しているが拡大できていない			
要因	・河床がアーモークト化、粗粒化している	・氾濫による植生の更新がない ・河岸まで竹林、人工林が繁茂している ・河畔林が密生化している		・生態把握が不十分である ・駆除方法が構築できていない	・大きな落差により阻害されている ・支川が水路化されている	・河畔林が密生化している		・活動メンバーが増えない ・住民との連携や情報交換が不足している			
対策方針	・瀬、淵、ワンドのある多様性の高い河床の創出を検討する	・在来植生による明るい河畔林をつくる		・生態研究により駆除方法を構築し実践する	・合流部の改善と支川の多自然川づくりによる矢作川との生態系の連続性を検討する	・在来植生による明るい河畔林をつくる		・流域市町や河川管理者との連携により、官民共働による河川愛護団体の設立と育成を目指した支援システムをつくる ・活動団体をネットワーク化し協力体制をつくる ・川をめぐる歴史の伝承方法を検討する(水汲遺跡)			



	自然環境の視点		まちづくりの視点		流域管理の視点		人の利用の視点		
	●魚類の生息環境の悪化	●川から陸域まで連続した生物の生息環境の減少	●治水架橋に伴う環境の変化	●外来種の増加	●矢作川と支川の連続性の分断	●ヒートアイランド強度の強まり	●計画的かつ連携された河川管理が未実施	●川の利用の減少	●親水性の低下
課題	・魚類を含めた水生生物の移動が阻害されている ・在来種の生息環境が悪化している	・底生動物相が貧弱となっている（ダム直下） ・水際などのエコトーンが減少している	・池島で一時的に糸状藻の大発生している ・カワヒバリガイが大繁殖している	・池島で一時的に糸状藻の大発生している ・カワヒバリガイが大繁殖している	・（普）市平川、（一）田代川との連続性がない	・一部で河川愛護団体が活動しているが拡大できていない	・川に近づきにくい ・川が見えにくい		
要因	・河床がアーモークート化、粗粒化している ・魚道の機能が不十分である	・減水により河床が安定化、粗粒化している ・氾濫による植生の更新がない ・河岸まで竹林、人工林が繁茂している ・河畔林が密生化している	・生態把握が不十分である ・駆除方法が構築できていない	・大きな落差と急な勾配により阻害されている ・支川が水路化されている	・河川景観が悪化している	・活動メンバーが増えない ・住民との連携や情報交換が不足している	・河畔林が密生化している		
対策方針	・水生生物がより移動しやすい魚道を検討する（回遊魚の降下） ・瀬、淵、ワンドのある多様性の高い河床の創出を検討する	・流量の効率的・効果的な水利用の合理化を検討する ・在来植生による明るい河畔林をつくる	・生態研究により駆除方法を構築し実践する	・合流部の改善と支川の多自然川づくりによる矢作川との生態系の連続性を検討する	・在来植生による明るい河畔林をつくる	・流域市町や河川管理者との連携により、官民共働による河川愛護団体の設立と育成を目指した支援システムをつくる ・活動団体をネットワーク化し協力体制をつくる			



	自然環境の視点		まちづくりの視点		流域管理の視点		人の利用の視点				
	●魚類の生息環境の悪化	●川から陸域まで連続した生物の生息環境の減少	●治水架橋に伴う環境の変化	●外来種の増加	●矢作川と支川の連続性の分断	●矢作川と周辺公園等の連続性の分断	●ヒートアイランド強度の強まり	●計画的かつ連携された河川管理が未実施	●矢作川に対する住民意識の低下	●川の利用の減少	●親水性の低下
課題	・在来種の生息環境が悪化している	・水際などのエコトーンが減少している			・(準)丹波川との連続性がない	・河川景観が悪化している		・一部で河川愛護団体が活動しているが拡大できていない	・川に近づきにくい ・川が見えにくい		
要因	・河床がアーモコート化、粗粒化している	・氾濫による植生の更新がない ・河岸まで竹林、人工林が繁茂している ・河畔林が密生化している			・大きな落差により阻害されている	・河畔林が密生化している		・活動メンバーが増えない ・住民との連携や情報交換が不足している	・河畔林が密生化している		
対策方針	・瀬、淵、ワンドのある多様性の高い河床の創出を検討する	・在来植生による明るい河畔林をつくる			・合流部の改善と支川の多自然川づくりによる矢作川との生態系の連続性を検討する	・在来植生による明るい河畔林をつくる		・流域市町や河川管理者との連携により、官民共働による河川愛護団体の設立と育成を目指した支援システムをつくる ・活動団体をネットワーク化し協力体制をつくる			



	自然環境の視点		まちづくりの視点		流域管理の視点		人の利用の視点				
	●魚類の生息環境の悪化	●川から陸域まで連続した生物の生息環境の減少	●治水架橋に伴う環境の変化	●外来種の増加	●矢作川と支川の連続性の分断	●まちづくりと周辺公園等の連続性の分断	●ヒートアイランド強度の強まり	●計画的かつ連携された河川管理が未実施	●矢作川に対する住民意識の低下	●川の利用の減少	●親水性の低下
課題	・在来種の生息環境が悪化している	・水際などのエコトーンが減少している			・(普)白石川、(一)介木川との連続性がない	・河川景観が悪化している		・一部で河川愛護団体が活動しているが拡大できていない			
要因	・河床がアーモークコート化、粗粒化している	・氾濫による植生の更新がない ・河岸まで竹林、人工林が繁茂している ・河畔林が密生化している			・大きな落差により阻害されている ・支川が水路化されている	・河畔林が密生化している		・活動メンバーが増えない ・住民との連携や情報交換が不足している			
対策方針	・瀬、淵、ワンドのある多様性の高い河床の創出を検討する	・在来植生による明るい河畔林をつくる			・合流部の改善と支川の多自然川づくりによる矢作川との生態系の連続性を検討する	・在来植生による明るい河畔林をつくる		・流域市町や河川管理者との連携により、官民共働による河川愛護団体の設立と育成を目指した支援システムをつくる ・活動団体をネットワーク化し協力体制をつくる			



	自然環境の視点		まちづくりの視点		流域管理の視点		人の利用の視点				
	●魚類の生息環境の悪化	●川から陸域まで連続した生物の生息環境の減少	●治水架橋に伴う環境の変化	●外来種の増加	●矢作川と支川の連続性の分断	●矢作川と周辺公園等の連続性の分断	●ヒートアイランド強度の強まり	●計画的かつ連携された河川管理が未実施	●矢作川に対する住民意識の低下	●川の利用の減少	●親水性の低下
課題	・魚類相が貧弱となっている ・魚類を含めた水生生物の移動が阻害されている	・底生動物相が貧弱となっている（ダム直下）		・矢作ダム湖が下流のカワヒバリガイの発生源となっている ・矢作ダム湖にオオクチバス、アメリカナマズ、ブラウントラウト等が生息している							
要因	・矢作ダム、矢作第二ダムに魚道がない	・瀬がほとんどなく全体が淵のようになっている ・流量の変動がほとんどない		・生態把握が不十分である ・駆除方法が構築できていない							
対策方針	・魚道設置を検討する	・流量の効率的・効果的な水利用の合理化を検討する		・生態研究により駆除方法を構築し実践する							



	自然環境の視点			まちづくりの視点			流域管理の視点		人の利用の視点		
	●魚類の生息環境の悪化	●川から陸域まで連続した生物の生息環境の減少	●治水架橋に伴う環境の変化	●外来種の増加	●矢作川と支川の連続性の分断	●矢作川と周辺公園等の連続性の分断	●ヒートアイランド強度の強まり	●計画的かつ連携された河川管理が未実施	●矢作川に対する住民意識の低下	●川の利用の減少	●親水性の低下
課題	・魚類相が貧弱となっている ・魚類を含めた水生生物の移動が阻害されている			・矢作ダム湖が下流のカワヒバリガイの発生源となっている ・矢作ダム湖にオオクチバス、アメリカナマズ、ブラウントラウト等が生息している							
要因	・矢作ダム、矢作第2ダムに魚道がない			・生態把握が不十分である ・駆除方法が構築できていない							
対策方針	・魚道設置を検討する			・生態研究により駆除方法を構築し実践する							

区間⑤：カルテ 16



	自然環境の視点		まちづくりの視点			流域管理の視点		人の利用の視点			
	●魚類の生息環境の悪化	●川から陸域まで連続した生物の生息環境の減少	●治水架橋に伴う環境の変化	●外来種の増加	●矢作川と支川の連続性の分断	●矢作川と周辺公園等の連続性の分断	●ヒートアイランド強度の強まり	●計画的かつ連続した河川管理が未実施	●矢作川に対する住民意識の低下	●川の利用の減少	●親水性の低下
課題	・魚類相が貧弱となっている			・コモチカワツボが移入している							
要因	・矢作ダム、矢作第2ダムに魚道がない			・生態把握が不十分である ・駆除方法が構築できていない							
対策方針	・魚道設置を検討する			・生態研究により駆除方法を構築し実践する							

第3回 『矢作川河川環境活性化プラン検討委員会』資料-3 矢作川カルテの修正について

主な修正箇所一覧表

修正箇所	修正前	修正後	理由
カルテ1、2、6J (自然環境の視点)	・河床の低下により二極化している	・河床の低下により二極化している ・河床がアーマーコート化、粗粒化している	“河床がアーマーコート化、粗粒化している”の記載漏れ
カルテ1、2 (自然環境の視点)	・治水整備により生物生息環境の一時的な悪化が懸念される ・樹木伐採により生物生息環境が大きく改変される ・治水整備(河道掘削・樹木伐採)や橋梁整備による河川環境保全対策を検討する	削除 削除 削除	治水整備による樹木伐採がないため
カルテ1ほか9箇所 (流域管理の視点)	・河川愛護団体等が結成されていない ・矢作川への関心が低下している	・河川管理に住民が参加していない ・住民との連携や情報交換が不足している	わかりやすい表現に変更
カルテ3A (図面)	—	・おしんぼう地蔵を追記	
カルテ3Bほか7箇所 (まちづくりの視点)	・竹林が密生化している	・河畔林が密生化している	表現を統一
カルテ3Bほか3箇所 (流域管理の視点)	・流域市町や河川管理者との連携により、官民共働による河川愛護団体の設立と育成を目指した支援システムをつくる ・安全な水際をつくり親水性を向上させる	・流域市町や河川管理者との連携により、官民共働による河川愛護団体の設立と育成を目指した支援システムをつくる ・安全な水際をつくり親水性を向上させる ・川をめぐる歴史の伝承方法を検討する(水入遺跡・細川分一番所)	歴史文化遺跡の追加記載
カルテ3C (自然環境の視点)	・天然アユの遡上数が横ばいである	天然アユの遡上数が増えていない	わかりやすい表現に変更
カルテ4D (まちづくりの視点)	・合流部の改善と支川の多自然川づくりにより、矢作川との生態系を高める(大見川は整備中)	・多自然川づくりにより整備中	わかりやすい表現に変更
カルテ4Eほか (自然環境の視点)	・治水整備(河道掘削・樹木伐採)や橋梁整備による河川環境保全対策を検討する	・治水整備(河道掘削・樹木伐採)に合わせて河川環境保全対策を検討する	橋梁整備がないため
カルテ5F (人の利用の視点)	・矢作緑地内の回遊性の確保 ・矢作緑地の回遊性が不足している ・木陰等の休憩場所の不足	・人が利用できる場所がない ・河畔林が密生化している	実情に合わせた表現に変更 実情に合わせた表現に変更
カルテ5Fほか4箇所 (人の利用の視点)	・親水性の確保	・川に近づけない	表現を統一
カルテ5Gほか3箇所 (自然環境の視点)	・二極化により水際が喪失している	・二極化により水際が崖地化している	わかりやすい表現に変更
カルテ5Gほか2箇所 (人の利用の視点)	・矢作緑地の回遊性が不足している	・スポーツ利用に特化している	わかりやすい表現に変更
カルテ6Kほか1箇所 (人の利用の視点)	・記載内容の全て	削除	河川愛護活動などにより、河畔林や散策路は整備済み
カルテ9ほか3箇所 (自然環境の視点)	・洪水時の攪乱頻度が減少している	・氾濫による植生の更新がない	表現を統一
カルテ13 (笹戸えん堤諸元)	魚道:あり	魚道 左岸:中部電力 右岸:愛知県	施工主体別を記載

その他、図面上での軽微な位置の修正、また表現およびカルテ間の整合性をはかるための軽微な文言の修正を行った。